



拡張 BGP の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [拡張 BGP について \(2 ページ\)](#)
- [拡張 BGP の前提条件 \(14 ページ\)](#)
- [拡張 BGP に関する注意事項と制限事項 \(15 ページ\)](#)
- [デフォルト設定 \(18 ページ\)](#)
- [拡張 BGP の設定 \(19 ページ\)](#)
- [BGP 追加パスの設定 \(37 ページ\)](#)
- [eBGP の設定 \(41 ページ\)](#)
- [AS 連合の設定 \(44 ページ\)](#)
- [ルートリフレクタの設定 \(44 ページ\)](#)
- [アウトバウンドルートマップを使用した、反映されたルートのネクストホップの設定 \(46 ページ\)](#)
- [ルートダンプニングの設定 \(49 ページ\)](#)
- [ロードシェアリングおよび ECMP の設定 \(50 ページ\)](#)
- [最大プレフィックス数の設定 \(50 ページ\)](#)
- [DSCP の設定 \(51 ページ\)](#)
- [ダイナミック機能の設定 \(51 ページ\)](#)
- [集約アドレスの設定 \(52 ページ\)](#)
- [BGP ルートの抑制 \(53 ページ\)](#)
- [BGP 条件付きアドバタイズメントの設定 \(54 ページ\)](#)
- [ルートの再配布の設定 \(56 ページ\)](#)
- [デフォルトルートのアドバタイズ \(58 ページ\)](#)
- [BGP 属性フィルタリングの設定とエラー処理 \(59 ページ\)](#)
- [BGP の調整 \(62 ページ\)](#)
- [ポリシーベースのアドミニストレーティブディスタンスの設定 \(68 ページ\)](#)
- [マルチプロトコル BGP の設定 \(69 ページ\)](#)
- [BMP の設定 \(71 ページ\)](#)
- [BGP ローカルルートリーク \(73 ページ\)](#)
- [BGP グレースフルシャットダウン \(81 ページ\)](#)

- [グレースフル リスタートの設定 \(94 ページ\)](#)
- [仮想化の設定 \(96 ページ\)](#)
- [拡張 BGP の設定の確認 \(98 ページ\)](#)
- [BGP 統計情報のモニタリング \(100 ページ\)](#)
- [設定例 \(100 ページ\)](#)
- [関連項目 \(101 ページ\)](#)
- [その他の参考資料 \(101 ページ\)](#)

拡張 BGP について

BGP は、組織または自律システム (AS) 間のループフリー ルーティングを実現する、ドメイン間ルーティングプロトコルです。Cisco NX-OS は BGP バージョン 4 をサポートします。BGP v4 に組み込まれているマルチプロトコル拡張機能を使用すると、IP マルチキャスト ルートおよび複数のレイヤ 3 プロトコル アドレス ファミリに関するルーティング情報を BGP に伝送させることができます。BGP では、他の BGP 対応デバイス (BGP ピア) との間で TCP セッションを確立するために、信頼できるトランスポート プロトコルとして TCP を使用します。外部組織に接続するときには、ルータが外部 BGP (eBGP) ピアリングセッションを作成します。同じ組織内の BGP ピアは、内部 BGP (iBGP) ピアリングセッションを通じて、ルーティング情報を交換します。

ピア テンプレート

BGP ピア テンプレートを使用すると、類似した BGP ピア間で再利用できる共通のコンフィギュレーションブロックを作成できます。各ブロックでは、ピアに継承させる一連の属性を定義できます。継承した属性の一部を上書きすることもできるので、非常に柔軟性のある方法で、繰り返しの多い BGP の設定を簡素化できます。

Cisco NX-OS は、3 種類のピア テンプレートを実装します。

- **peer-session** テンプレートでは、トランスポートの詳細、ピアのリモート自律システム番号、セッションタイマーなど、BGP セッション属性を定義します。peer-session テンプレートは、別の peer-session テンプレートから属性を継承することもできます (ローカル定義の属性によって、継承した peer-session 属性は上書きされます)。
- **peer-policy** テンプレートでは、着信ポリシー、発信ポリシー、フィルタリスト、プレフィックス リストを含め、アドレス ファミリに依存する、ピアのポリシー要素を定義します。peer-policy テンプレートは peer-policy テンプレートのセットから継承できます。Cisco NX-OS 継承設定のプリファレンス値で指定された順序で、これらの peer-policy テンプレートの評価します。最小値が大きい値よりも優先されます。
- **peer** テンプレートは、peer-session および peer-policy テンプレートからの継承が可能であり、ピアの定義を簡素化できます。peer テンプレートの使用は必須ではありませんが、peer テンプレートによって再利用可能なコンフィギュレーションブロックが得られるので、BGP の設定を簡素化できます。

認証

BGP ネイバーセッションに認証を設定できます。この認証方式によって、ネイバーに送られる各 TCP セグメントに MD5 認証ダイジェストが追加され、不正なメッセージや TCP セキュリティアタックから BGP が保護されます。



(注) MD5 パスワードは、BGP ピア間で一致させる必要があります。

ルートポリシーおよび BGP セッションのリセット

BGP ピアにルートポリシーを関連付けることができます。ルートポリシーではルートマップを使用して、BGP が認識するルートを制御または変更します。着信または発信ルートアップデートに関するルートポリシーを設定できます。ルートポリシーはプレフィックス、AS_path 属性など、さまざまな条件で一致が必要であり、ルートを選択して受け付けるかまたは拒否します。ルートポリシーでパス属性を変更することもできます。

BGP ピアに適用するルートポリシーを変更する場合は、そのピアの BGP セッションをリセットする必要があります。Cisco NX-OS は、BGP セッションをリセットするため、次の 3 つのメカニズムをサポートしています。

- **ハードリセット**：ハードリセットでは、指定されたピアリングセッションが TCP 接続を含めて切断され、指定のピアからのルートが削除されます。このオプションを使用すると、BGP ネットワーク上のパケットフローが中断します。ハードリセットは、デフォルトでディセーブルです。
- **ソフト再構成着信**：ソフト再構成着信によって、セッションをリセットすることなく、指定されたピアのルーティングアップデートが開始されます。このオプションを使用できるのは、着信ルートポリシーを変更する場合です。ソフト再構成着信の場合、ピアから受け取ったすべてのルートのコピーを保存したあとで、着信ルートポリシーを介してルートが処理されます。着信ルートポリシーを変更する場合、Cisco NX-OS は変更された着信ルートポリシーを介して保存ルートを渡し、既存のピアリングセッションを切断することなく、ルートテーブルをアップデートします。ソフト再構成着信の場合、まだフィルタリングされていない BGP ルートの保存に、大量のメモリリソースを使用する可能性があります。ソフト再構成着信は、デフォルトでディセーブルです。
- **ルートリフレッシュ**：ルートリフレッシュでは、着信ルートポリシーの変更時に、サポートするピアにルートリフレッシュ要求を送信することによって、着信ルーティングテーブルがダイナミックにアップデートされます。リモート BGP ピアは新しいルートコピーで応答し、ローカル BGP スピーカが変更されたルートポリシーでそれを処理します。Cisco NX-OS は自動的に、プレフィックスのアウトバウンドルートの更新をピアに送信します。
- **BGP ピアは、BGP ピアセッションの確立時に、BGP 機能ネゴシエーションの一部として、ルートリフレッシュ機能をアドバタイズします。ルートリフレッシュは優先オプションであり、デフォルトでイネーブルです。**



- (注) BGP はさらに、ルート再配布、ルート集約、ルート ダンプニングなどの機能にルート マップを使用します。ルート マップの詳細については、[Route Policy Manager の設定](#)を参照してください。

eBGP

eBGP を使用すると、異なる AS からの BGP ピアを接続し、ルーティングアップデートを交換できます。外部ネットワークへの接続によって、自分のネットワークから他のネットワークへ、またインターネットを介して、トラフィックを転送できます。

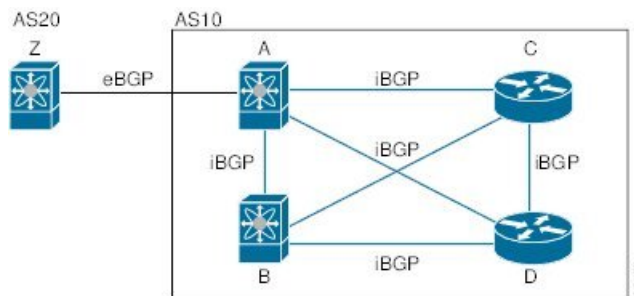
通常、eBGP ピアリングは、インターフェイスがダウンしたときにコンバージェンスが高速になるように、直接接続されたインターフェイス上で行う必要があります。

iBGP

iBGP を使用すると、同じ自律システム内の BGP ピアを接続できます。iBGP はマルチホーム BGP ネットワーク（同じ外部自律システムに対して複数の接続があるネットワーク）に使用できます。

図に、大きい BGP ネットワークの中の iBGP ネットワークを示します。

図 1: iBGP ネットワーク



iBGP ネットワークはフルメッシュです。各 iBGP ピアは、ネットワーク ループを防止するために、他のすべての iBGP ピアに対して直接接続されています。

ネイバー コンフィギュレーション モードで `update-source` が設定された単一ホップ iBGP ピアでは、ピアは高速外部フェールオーバーをサポートします。

iBGP ピアリングセッションの確立には、ループバック インターフェイスを使用します。ループバック インターフェイスは、インターフェイス フラップが発生する可能性が小さいからです。インターフェイスフラップが発生するのは、障害またはメンテナンスが原因で、インターフェイスが管理上アップまたはダウンになったときです。マルチホップ、高速外部フェールオーバー、AS パス属性のサイズ制限については、[eBGP の設定 \(41 ページ\)](#) セクションを参照してください。



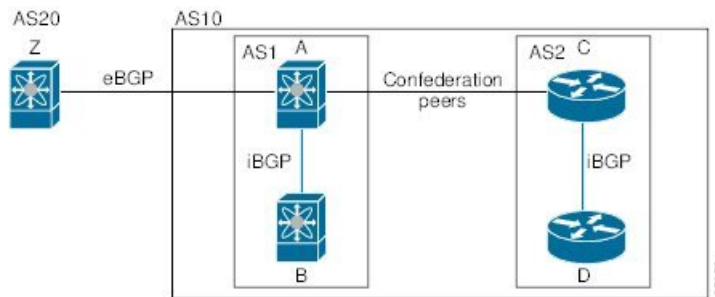
(注) iBGP ネットワークでは別個のインテリア ゲートウェイ プロトコルを設定する必要がありません。

AS 連合

フルメッシュの iBGP ネットワークは、iBGP ピア数が増えるにしたがって複雑になります。自律システムを複数のサブ自律システムに分割し、それを 1 つの連合としてまとめることによって、iBGP メッシュを緩和できます。連合は、同じ自律システム番号を使用して外部ネットワークと通信する、iBGP ピアからなるグループです。各サブ AS はその中ではフルメッシュであり、同じ連合内の他のサブ AS に対する少数の接続があります。

図に BGP ネットワークが 2 つのサブ AS と 1 つの連合に分けられて表示されます。

図 2: AS 連合



この例では、AS10 が 2 つの AS (AS1 および AS2) に分割されています。各サブ AS はフルメッシュですが、サブ AS 間のリンクは 1 つだけです。AS 連合を使用することによって、フルメッシュ AS に比べて、リンク数を少なくできます。

ルート リフレクタ

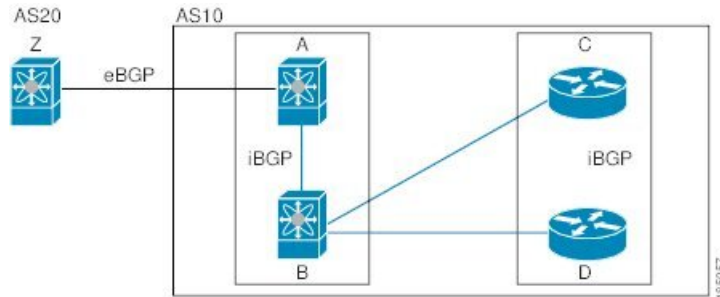
すべての iBGP ピアが完全に一致する必要がないように、ルートリフレクタが学習したルートをネイバーに渡すルートリフレクタ構成を使用することによって、iBGP メッシュを削減できます。

ある iBGP ピアをルートリフレクタとして設定すると、そのピアが iBGP で学習したルートを一連の iBGP ネイバーに渡す役割を担います。

図に、メッシュの iBGP スピーカを 4 つ (ルータ A、B、C、D) 使用する、単純な iBGP 構成を示します。ルートリフレクタを使用しなかった場合、外部ネイバーからルートを受け取ったルータ A は、3 つの iBGP ネイバーのすべてにルートをアドバタイズします。

図では、ルータ B がルートリフレクタです。ルートリフレクタは、ルータ A からアドバタイズされたルートを受信すると、ルータ C と D へのルートをアドバタイズ (リフレクト) します。ルータ A は、ルータ C と D の両方にアドバタイズする必要がなくなります。

図 3: ルートリフレクタ



ルートリフレクタおよびそのクライアントピアは、クラスタを形成します。ルートリフレクタのクライアントピアとして動作するように、すべてのiBGPピアを設定する必要はありません。ただし、完全なBGPアップデートがすべてのピアに届くように、非クライアントピアはフルメッシュとして設定する必要があります。

機能ネゴシエーション

BGPスピーカーは機能ネゴシエーション機能を使用することによって、ピアでサポートされているBGP拡張機能を学習できます。機能ネゴシエーションによって、リンクの両側のBGPピアがサポートする機能セットだけをBGPに使用させることができます。

BGPピアが機能ネゴシエーションをサポートしない場合で、なおかつアドレスファミリがIPv4として設定されている場合、Cisco NX-OSは機能ネゴシエーションを行わずに、ピアとの新規セッションを試みます。他のマルチプロトコル設定（IPv6など）の場合は、機能ネゴシエーションが不可欠です。

ルートダンプニング

ルートダンプニングは、インターネットワーク上でのフラッピングルートの伝搬を最小限に抑えるBGP機能です。ルートフラップが発生するのは、使用可能ステートと使用不能ステートが短時間で次々切り替わる場合です。

AS1、AS2、およびAS3という3つのBGP自律システムからなるネットワークの場合について考えてみます。AS1のルートがフラップした（使用不能になった）とします。ルートダンプニングを使用しない場合、AS1はAS2に回収メッセージを送信します。AS2はAS3にその回収メッセージを伝達します。フラッピングルートが再び発生すると、AS1からAS2にアドバタイズメントメッセージを送信し、AS2はAS3にそのアドバタイズメントを送信します。ルートの使用不能と使用可能が繰り返されると、AS1は多数の回収メッセージおよびアドバタイズメントメッセージを送信することになり、それが他の自律システムに伝播します。

ルートダンプニングによって、フラッピングを最小限に抑えることができます。ルートフラップが発生したとします。（ルートダンプニングがイネーブルの）AS2がルートにペナルティとして1000を割り当てます。AS2は引き続き、ネイバーにルートの状態をアドバタイズします。ルートフラップが発生するたびに、AS2がペナルティ値を追加します。ルートフラップが頻繁に発生して、ペナルティが設定可能な抑制限度を超えると、AS2はフラップ回数に関係

なく、ルートのアドバタイズを中止します。その結果、ルートが減衰（ダンプニング）します。

ルートに与えられたペナルティは、再使用限度に達するまで減衰します。その時点で、AS2 は再びルートをアドバタイズします。再使用限度が 50% になると、AS2 はそのルートのダンプニング情報を削除します。



-
- (注) ルートダンプニングがイネーブルの場合は、ピアのリセットによってルートが回収されても、リセット中の BGP にはペナルティは適用されません。
-

ロードシェアリングおよびマルチパス

BGP はルーティングテーブルに、同じ宛先プレフィックスに到達する複数の等コスト eBGP または iBGP パスを組み込むことができます。その場合、宛先プレフィックスへのトラフィックは、組み込まれたすべてのパス間で共有されます。

BGP ベストパス アルゴリズムでは、次の属性が同じ場合に、等コストパスと見なされます。

- 重量
- ローカルプリファレンス
- AS_path
- オリジンコード
- Multi-Exit Discriminator (MED)
- BGP ネクストホップまでの IGP コスト

BGP はこれら複数のパスの中から、ベストパスとして 1 つだけ選択し、そのパスを BGP ピアにアドバタイズします。詳細については、「[BGP の追加パス](#)」の項を参照してください。



-
- (注) 異なる AS 連合から受け取ったパスは、外部 AS_path 値およびその他の属性が同じ場合に、等コストパスと見なされます。
-



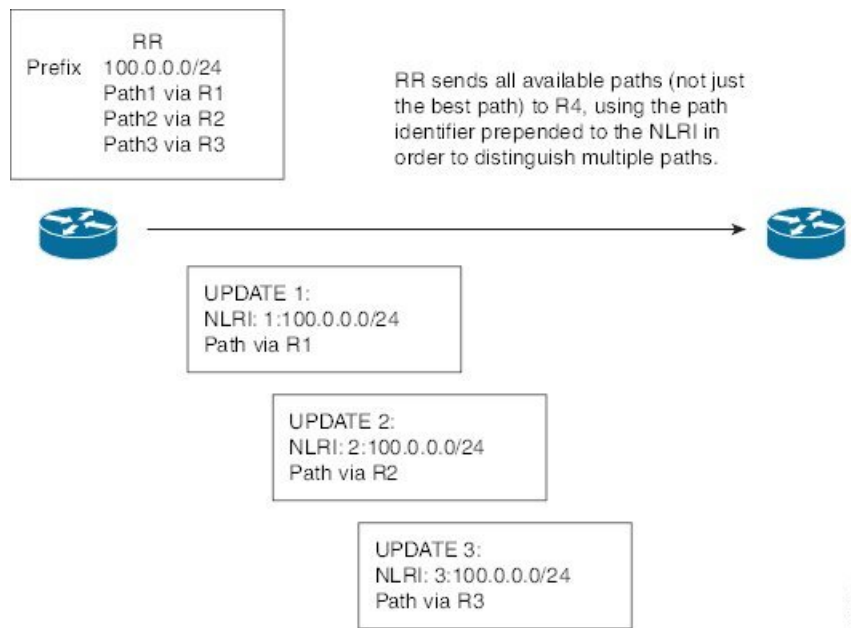
-
- (注) iBGP マルチパスに関してルートリフレクタを設定すると、ルートリフレクタが、選択されたベストパスをピアにアドバタイズします。そのパスのネクストホップは変更されません。
-

BGP の追加パス

1つのBGP最良パスだけがアドバタイズされ、BGPスピーカーは特定ピアからの特定プレフィックスの1パスだけを受け入れます。BGPスピーカーが同じセッション内で同じプレフィックスの複数のパスを受信した場合、最新のアドバタイズメントを使用します。

BGPは、以前のパスに代わる新しいパスなしで、BGPスピーカーが同じプレフィックスに対して複数のパスを伝播し、受け入れることを可能にする追加のパス機能をサポートします。この機能は、BGPスピーカーのピアが、プレフィックスごとの複数パスのアドバタイズおよび受信をサポートし、また、そのパスのアドバタイズをサポートするかどうかネゴシエートすることを可能にします。特別な4バイトのパスIDは、ピアセッションを介して送信される同じプレフィックスに対して複数のパスを区別するため、ネットワーク層到達可能性情報(NLRI)に追加されます。次の図に、追加のBGPパス機能を示します。

図 4: 追加パスの機能を持つ BGP ルートアドバタイズメント



BGP 追加パス設定の詳細については、[BGP 追加パスの設定 \(37 ページ\)](#) の項を参照してください。

ルート集約

集約アドレスを設定できます。ルート集約を使用すると、固有性の強い一連のアドレスをすべての固有アドレスを代表する1つのアドレスに置き換えることによって、ルートテーブルを簡素化できます。たとえば、10.1.1.0/24、10.1.2.0/24、および10.1.3.0/24という固有性の強い3つのアドレスを1つの集約アドレス10.1.0.0/16に置き換えることができます。

アドバタイズされるルートが少なくなるように、BGP ルートテーブル内には集約プレフィックスが存在します。



(注) Cisco NX-OS は、自動ルート集約をサポートしません。

ルート集約はフォワーディンググループにつながる可能性があります。この問題を回避するために、集約アドレスのアドバタイズメントを生成するときに、BGP はローカルルーティングテーブルに、その集約アドレスに対応するサマリー廃棄ルートを自動的に組み込みます。BGP はサマリー廃棄のアドミニストレーティブ ディスタンスを 220 に設定し、ルート タイプを廃棄に設定します。BGP はネクストホップ解決に廃棄ルートを使用しません。

ユーザが `aggregate-address` コマンドを発行すると、BGP テーブルにサマリー エントリが作成されますが、サマリーエントリは、集約のサブセットがテーブルで見つかるまでアドバタイズできません。

BGP 条件付きアドバタイズメント

BGP 条件付きアドバタイズメントを使用すると、プレフィックスが BGP テーブルに存在するかどうかに基づいてルートをアドバタイズまたは撤回するように BGP を設定できます。この機能は、たとえば、BGP でいずれかのプロバイダーにプレフィックスをアドバタイズするようなマルチホームネットワーク（他のプロバイダーからの情報が存在しない場合のみ）で便利です。

AS1、AS2、および AS3 という 3 つの BGP 自律システムからなるネットワークの例について考えてみます。この例で、AS1 と AS3 はインターネットと AS2 に接続しています。条件付きアドバタイズメントを使用しない場合、AS2 はすべてのルートを AS1 と AS3 の両方にプロパゲートします。条件付きアドバタイズメントを使用すれば、AS1 からのルートが存在しない場合のみ（たとえば AS1 へのリンクがダウンした場合）、特定のルートを AS3 にアドバタイズするように AS2 を設定できます。

BGP 条件付きアドバタイズメントでは、設定されたルートマップに一致する各ルートに、存在テストまたは非存在テストが追加されます。「[BGP 条件付きアドバタイズメントの設定](#)」を参照してください。

BGP ネクスト ホップ アドレス トラッキング

BGP は、インストールされているルートのネクスト ホップ アドレスをモニタして、ネクストホップの到達可能性の確認、および BGP ベストパスの選択、インストール、検証を行います。BGP ネクストホップアドレスのトラッキングを行うと、ネクストホップの到達可能性に影響を及ぼす可能性のあるルート変更がルーティング情報ベース（RIB）で行われたときに確認プロセスをトリガーすることで、このようなネクストホップ到達可能性テストの速度が向上します。

ネクストホップ情報が変更されると、BGP は RIB から通知を受信します（イベント駆動型の通知）。BGP は、次のいずれかのイベントが発生したときに通知を受けます。

- ネクストホップが到達不能になった。
- ネクストホップが到達可能になった。

- ネクスト ホップへの完全再帰のインテリア ゲートウェイ プロトコル (IGP) メトリックが変更された。
- ファースト ホップの IP アドレスまたはファースト ホップのインターフェイスが変更された。
- ネクスト ホップが接続された。
- ネクスト ホップが接続解除された。
- ネクスト ホップがローカル アドレスになった。
- ネクスト ホップが非ローカル アドレスになった。



(注) 到達可能性および再帰メトリック イベントは、最適パスの再計算をトリガーします。

RIB からのイベント通知は、クリティカルおよび非クリティカルとして分類されます。クリティカルおよび非クリティカルイベントの通知は、別々のバッチで送信されます。ただし、非クリティカルイベントが保留中であり、クリティカルイベントを読み込む要求がある場合は、非クリティカルイベントがクリティカルイベントとともに送信されます。

- クリティカルなイベントとは、異なるパスに対してスイッチオーバーの原因となるネクスト ホップの消失など、ネクスト ホップの到達可能性に関連しています。異なるパスに対してスイッチオーバーの原因となるネクスト ホップの IGP メトリックの変更は、クリティカルなイベントと見なすことができます。
- 非クリティカルなイベントとは、最適パスに影響を与えたり、単一のネクスト ホップに IGP メトリックを変更したりせずに追加されるネクスト ホップに関連しています。

詳細については、「[BGP ネクスト ホップ アドレス トラッキングの設定](#)」を参照してください。

ルートの再配布

スタティック ルートまたは他のプロトコルからのルートを再配布するように、BGP を設定できます。再配布を指定したルート マップを設定して、どのルートが BGP に渡されるかを制御する必要があります。ルート マップを使用すると、宛先、送信元プロトコル、ルートタイプ、ルートタグなどの属性に基づいて、ルートをフィルタリングできます。詳細については、[Route Policy Manager の設定](#)を参照してください。

ルート マップを使用して両シナリオのデフォルト動作を無効にできますが、ルート マップの正しくない使用によってネットワークループが発生することがあるため、そうする場合は注意が必要です。次に、デフォルトの動作の変更ルート マップを使用する例を示します。

ルート マップの変更によって、シナリオ 1 のデフォルトの動作を次のように変更できます。

```
route-map foo permit 10
  match route-type internal
```

```
router ospf 1
  redistribute bgp 100 route-map foo
```

同様に、ルートマップの変更によって、シナリオ2のデフォルトの動作を次のように変更できます。

```
route-map foo deny 10
  match route-type internal
router ospf 1
  vrf bar
  redistribute bgp 100 route-map foo
```

ラベル付きユニキャスト ルートとラベルなしユニキャスト ルート

リリース7.0(3)I7(6)では、SAFI-1（ラベルなしユニキャスト）およびSAFI-4（ラベル付きユニキャストルーティング）が単一セッションのIPv4 BGPでサポートされるようになりました。詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Label Switching Configuration Guide, Release 7.x*』を参照してください。

BFD

この機能では、IPv4およびIPv6用の双方向フォワーディング検出（BFD）をサポートします。BFDは、転送パスの障害を高速で検出することを目的とした検出プロトコルです。BFDは2台の隣接デバイス間のサブセカンド障害を検出し、BFDの負荷の一部を、サポートされるモジュール上のデータプレーンに分散できるため、プロトコルhelloメッセージよりもCPUをえません。

BGPのBFDはeBGPピアおよびiBGPシングルホップピアでサポートされます。BFDを使用しているiBGPシングルホップピアのネイバー設定モードで**update-source**オプションを設定します。

Cisco NX-OS リリース 9.3(3) 以降では、BGPのBFDはBGP IPv4とIPv6のプレフィックスピアでもサポートされます。このサポートにより、BGPはマルチホップBFDを使用できるようになり、BGPコンバージェンス時間が改善されます。プレフィックスピアでは、シングルホップBGPとマルチホップBGPの両方がサポートされます。

Cisco NX-OS リリース 9.3(3) 以降、BFDはIPv4およびIPv6アドレスファミリのIPv6リンクローカルを介したBGPインターフェイスピアリングをサポートします。ただし、BFDマルチホップはアンナンバードBGPではサポートされません。

詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide*』を参照してください。

BGP の調整

BGPタイマーによって、さらにベストパスアルゴリズムの調整によって、BGPのデフォルト動作を変更できます。

BGP タイマー

BGP では、ネイバー セッションおよびグローバルプロトコル イベントにさまざまなタイプの タイマーを使用します。確立されたセッションごとに、最低限2つのタイマーがあります。定期的にキープアライブメッセージを送信するためのタイマー、さらに想定時間内にピアのキープアライブが届かなかった場合に、セッションをタイムアウトさせるためのタイマーです。また、個々の機能を処理するための、その他のタイマーがあります。これらのタイマーは通常、秒単位で設定します。タイマーには、異なる BGP ピアで同じタイマーが異なるタイミングでスタートするように、ランダム アジャストメントが組み込まれています。

ベストパス アルゴリズムの調整

オプションの設定パラメータによって、ベストパスアルゴリズムのデフォルト動作を変更できます。たとえば、アルゴリズムでの Multi-Exit Discriminator (MED) 属性およびルータ ID の扱い方を変更できます。

マルチプロトコル BGP

Cisco NX-OS の BGP は、複数のアドレス ファミリをサポートします。マルチプロトコル BGP (MP-BGP) は、アドレス ファミリに応じて異なるルートセットを伝送します。BGP ではたとえば、IPv4 ユニキャストルーティング用のルートセットを1つ、IPv4 マルチキャストルーティング用のルートセットを1つ、さらに IPv6 マルチキャストルーティング用のルートセットを1つ伝送できます。IP マルチキャスト ネットワークではリバースパス フォワーディング (RPF) のチェックに MP-BGP を使用できます。



(注) マルチキャスト BGP ではマルチキャスト状態情報をプロパゲートしないため、プロトコル独立マルチキャスト (PIM) などのマルチキャストプロトコルが必要です。

マルチプロトコル BGP 設定をサポートするには、ルータアドレスファミリおよびネイバーアドレスファミリの各コンフィギュレーション モードを使用します。MP-BGP では、設定されたアドレスファミリごとに別々の RIB が維持されます (ユニキャスト RIB と、BGP のマルチキャスト RIB など)。

マルチプロトコル BGP ネットワークは下位互換性がありますが、マルチプロトコル拡張機能をサポートしない BGP ピアは、アドレスファミリ ID 情報など、マルチプロトコル拡張機能が伝送するルーティング情報を転送できません。

RFC 5549

BGP は RFC 5549 をサポートしており、IPv4 プレフィックスを IPv6 ネクスト ホップで伝送できます。BGP はすべてのホップで実行されるため、すべてのルータが IPv4 および IPv6 トラフィックを転送できます。したがって、ルータ間で IPv6 トンネルをサポートする必要はありません。BGP は、IPv6 ルートを介した IPv4 を Unicast Route Information Base (URIB) にインストールします。

Cisco NX-OS リリース9.2(2)以降では、-R タイプのラインカードを搭載した Cisco Nexus 9500 プラットフォーム スイッチは、RFC 5549 をサポートします。

現在、NX-OS は IPv4 ルートの IPv6 再帰ネクストホップ (RNH) をサポートしていません。

BGP モニタリング プロトコル

BGP モニタリング プロトコル (BMP) は、BGP アップデートとピア統計情報をモニタし、すべての Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでサポートされます。

このプロトコルを使用して、BGP スピーカーは外部 BMP サーバに接続し、BGP イベントに関する情報を送信します。1つの BGP スピーカーに最大2つの BMP サーバを設定でき、各 BGP ピアは BMP サーバのすべてまたはサブセットによるモニタリング用に設定できます。BGP スピーカーは、BMP サーバからの情報を受け入れません。

グレースフル リスタートおよびハイ アベイラビリティ

Cisco NX-OS は、BGP に対してノンストップ フォワーディングとグレースフル リスタートをサポートしています。

BGP ルーティングプロトコル情報がフェールオーバー後に復元されている間に、転送情報ベース (FIB) 内の既知のルートでデータパケットを転送するように、BGP の無停止フォワーディング (NSF) を使用できます。NSF では、BGP ピアはルーティング フラップと無縁です。フェールオーバー時に、データトラフィックはインテリジェントモジュール経由で転送され、スタンバイ スーパーバイザがアクティブになります。

Cisco NX-OS ルータでコールドリブートが発生した場合、ネットワークはルータへのトラフィック転送を中止し、ネットワーク トポロジからルータを削除します。この状況では、BGP は非グレースフル リスタートになり、すべてのルートが削除されます。Cisco NX-OS がスタートアップコンフィギュレーションを適用すると、BGP はピアリングセッションを再び確立して、ルートを再学習します。

Cisco NX-OS デュアルスーパーバイザ構成のルータでは、ステートフルスーパーバイザスイッチオーバーが実行されます。スイッチオーバーの間、BGP は無停止フォワーディングを使用し、FIB の情報に基づいてトラフィックを転送します。システムがネットワーク トポロジから取り除かれることはありません。ネイバーが再起動しているルータは、「ヘルパー」と呼ばれます。スイッチオーバー後、グレースフルリスタート動作が開始されます。この処理が進行中の際、2つのルータはネイバー関係を再確立し、これらの BGP ルートを交換します。それらネイバー関係が再起動したとしても、ヘルパーは再起動中のピアを指すプレフィックスを転送し続け、再起動中のルータはピアへトラフィックを転送し続けます。再起動中のルータがグレースフルリスタート可能なすべての BGP ピアを持つ場合、グレースフルリスタートが完了し、BGP は再び動作可能なネイバーを通知します。

グレースフルリスタート動作中であることがルータで検出されると、両方のルータがそれぞれのトポロジテーブルを交換します。すべての BGP ピアからルートアップデートを受信したルータは、古いルートをすべて削除し、アップデートされたルートでベストパスアルゴリズムを実行します。

スイッチオーバーが完了すると、Cisco NX-OS は実行コンフィギュレーションを適用し、BGP は自身が再度使用可能になったことをネイバーに通知します。

ネイバー コンフィギュレーション モードで `update-source` が設定された単一ホップ iBGP ピアでは、ピアは高速外部フェールオーバーをサポートします。

追加 BGP パス機能により、特定のプレフィックスにアドバタイズされるパス数が再起動の前後で同じ場合、パス ID の選択は古いパスの最終状態および削除を保証します。いくつかのパスが指定されたプレフィックスにアドバタイズされる場合、古いパスがグレースフルリスタート ヘルパー ピアに発生する可能性があります。

メモリ不足の処理

BGP は、次の条件でメモリ不足に対処します。

- **マイナーアラート**：BGP は新しい eBGP ピアを確立しません。BGP は新しい iBGP ピアおよび連合ピアの確立は続行します。ピアは存続しますが、リセットピアは再確立されません。
- **重大アラート**：BGP は、メモリアラートがマイナーになるまで、選択した確立済み eBGP ピアを 2 分おきにシャットダウンします。eBGP ピアごとに、受信したパスの合計数と最適パスとして選択されたパスの数の比率が計算されます。比率が最高のピアが、メモリ使用状況を削減するためのシャットダウン対象として選択されます。オシレーションを回避するために、シャットダウンされた eBGP ピアを復帰する前にその eBGP ピアをクリアする必要があります。



(注) 重要な eBGP ピアをこの選択プロセスから除外できます。

- **クリティカルアラート**：BGP は確立されたすべてのピアを正常にシャットダウンします。シャットダウンされた eBGP ピアを復帰する前にその eBGP ピアをクリアする必要があります。

メモリ不足状態によるシャットダウンから BGP ピアを除外する方法の詳細については、「[BGP の調整](#)」を参照してください。

仮想化のサポート

1 個の BGP インスタンスを設定できます。BGP は、仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスをサポートします。

拡張 BGP の前提条件

拡張 BGP の前提条件は次のとおりです。

- BGP を有効にする必要があります（「[BGP の有効化](#)」の項を参照）。

- システムに有効なルータ ID を設定しておく必要があります。
- Regional Internet Registry (RIR) によって割り当てられたか、またはローカル管理の AS 番号を取得しておく必要があります。
- ネイバー関係を作成しようとするピアに到達可能でなければなりません (Interior Gateway Protocol (IGP)、スタティック ルート、直接接続など)。
- BGP セッションを確立するネイバー環境で、アドレス ファミリを明示的に設定する必要があります。

拡張 BGP に関する注意事項と制限事項

拡張 BGP 設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- Cisco NX-OS リリース 9.3(5) 以降、コマンドの動作が変更された 3 つのシナリオがあります。

```
• Router bgp 1
  Template peer abc
    Ttl-security hops 30
  Neighbor 1.2.3.4
  Inherit peer abc
```

後で **ebgp-multihop 20** コマンドを入力すると、**ttl-security hops 30** コマンドが存在するため、設定はブロックされます。Cisco NX-OS リリース 9.3(5) 以降、設定はブロックされなくなりました。ただし、**ttl-security hops** コマンドが優先され、有効な機能になります。

```
• Router bgp 1
  Template peer abc
    Ebgp-multihops 20
  Neighbor 1.2.3.4
  Inherit peer abc
```

後で **ttl-security hops 30** コマンドを入力すると、**ebgp-multihop 20** コマンドが存在するため、設定はブロックされます。Cisco NX-OS リリース 9.3(5) 以降、設定はブロックされなくなりました。ただし、ここでも **ttl-security hops** コマンドが優先され、有効な機能になります。

```
• Router bgp 1
  Template peer abc
    Remote-as 1
  Neighbor 1.2.3.4
  Inherit peer abc
```

後で **ttl-security hops 30** または **ebgp-multihop 20** コマンドを入力すると、ブロックされます。Cisco NX-OS リリース 9.3(5) 以降、設定はブロックされなくなりました。ただし、ピアが iBGP ピアになる **remote-as** コマンドが優先されるため、これらの機能はオフになります。

- プレフィックス ピアリングは、パッシブ TCP モードでのみ動作します。ピア アドレスがプレフィックス内にある場合、リモート ピアからの着信接続を受け入れます。
- Cisco NX-OS 9.3(5) 以降、vPC ピアへの TTL 値が 1 のパケットは、転送されるハードウェアです。
- **advertise-maps** コマンドを複数回設定することはサポートされていません。
- プレフィックスリスト内の名前は、大文字と小文字が区別されません。一意の名前を使用することを推奨します。大文字と小文字を変更して同じ名前を使用しないでください。たとえば、CTCPPrimaryNetworks と CtcPrimaryNetworks は 2 つの異なるエントリではありません。
- ダイナミック AS 番号プレフィックスピア設定は、BGP テンプレートから継承した個々の AS 番号の設定よりも優先します。
- AS 連合でプレフィックスピアにダイナミック AS 番号を設定した場合、BGP はローカル連合の AS 番号のみでセッションを確立します。
- ダイナミック AS 番号プレフィックスピアで作成された BGP セッションは、設定済みの eBGP マルチホップ存続可能時間 (TTL) 値や直接接続ピアに対するディセーブル済みのチェックを無視します。
- ルータ ID の自動変更およびセッションフラップを避けるために、BGP 用のルータ ID を設定します。
- ピアごとに最大プレフィックス設定オプションを使用し、受信するルート数および使用するシステムリソース数を制限してください。
- **update-source** を設定し、eBGP マルチホップセッションでセッションを確立します。
- 再配布を設定する場合は、BGP ルートマップを指定します。
- VRF 内で BGP ルータ ID を設定します。
- キープアライブおよびホールドタイマーの値を小さくすると、ネットワークでセッションフラップが発生する可能性があります。
- BGP を IGP に再配布するとき、iBGP も再配布されます。この動作を無効にするには、ルートマップに追加 **deny** 文を挿入します。
- iBGP の単一ホップピアに対して BFD を有効にするには、物理インターフェイスの **update-source** オプションを設定します。
- VLAN には、次の注意事項および制約事項が **remove-private-as** コマンドに適用されます。
 - これは、eBGP ピアにだけ適用されます。
 - ネイバー コンフィギュレーションモードだけで設定可能となり、ネイバー アドレスファミリモードでは設定できません。

- AS パスにプライベートとパブリック AS 番号を含める場合、プライベート AS 番号は削除されません。
- AS パスに eBGP ネイバーの AS 番号が含まれている場合、プライベート AS 番号は削除されません。
- その AS パス内のすべての AS 番号がプライベート AS 番号範囲に属する場合のみ、プライベート AS 番号は削除されます。ピアの AS 番号または非プライベート AS 番号が AS パス セグメントに存在する場合、プライベート AS 番号は削除されません。
- **aggregate-address** を使用する場合 コマンドを使用して集約アドレスを設定し、**suppress-fib-pending** コマンドを使用して BGP ルートを抑制するコマンドを使用する場合、集約のロスレス トラフィックを BGP またはシステム トリガーで保証できません。
- スイッチで FIB 抑制をイネーブルにし、ルートプログラミングがハードウェアで失敗すると、BGP はハードウェアでローカルにプログラミングされていないルートをアドバタイズします。
- ネイバー、テンプレート ピア、テンプレート ピアセッション、またはテンプレート ピアポリシー コンフィギュレーション モードでコマンドを無効にした場合 (**inherit peer** または **inherit peer-session** コマンドが存在する場合)、**default** キーワードを使用してコマンドをデフォルトの状態に戻す必要があります。たとえば、実行コンフィギュレーションから **default update-source loopback 0** コマンドを無効にするには、**update-source loopback 0** コマンドを入力する必要があります。
- **route-reflector** クライアントに **next-hop-self** が設定されている場合、ルートリフレクタは自身をネクスト ホップとしてクライアントにルートをアドバタイズします。
- 重み付き ECMP に次の注意事項および制約事項が適用されます。
 - 重み付き ECMP 機能は、IPv4 アドレス ファミリでのみサポートされます。
 - BGP は、**draft-ietf-idr-link-bandwidth-06.txt** で定義されているリンク帯域幅 EXTCOMM を使用して、重み付け ECMP 機能を実装します。
 - BGP は、eBGP ピアと iBGP ピアの両方から受け入れることができます。
- IPv4 および IPv6 アドレス ファミリの IPv6 リンクローカルを介した BGP インターフェイス ピ어링には、次の注意事項と制限事項が適用されます。
 - この機能は、複数のインターフェイス間で同じリンクローカルアドレスを設定することをサポートしていません。
 - この機能は、リンクローカルアドレスを持つ IPv6 対応インターフェイスでのみサポートされます。
 - この機能は、設定されたプレフィックス ピアとインターフェイスのリモート ピアが同じ場合はサポートされません。
 - 次のコマンドはネイバーインターフェイス コンフィギュレーションモードではサポートされていません。

- **disable-connected-check**
 - **maximum-peers**
 - **update-source**
 - **ebgp-multihop**
- BFD マルチホップおよび次のコマンドは、IPv4 および IPv6 アドレス ファミリの IPv6 リンクローカルを介した BGP インターフェイスピアリングではサポートされません。
- **bfd-multihop**
 - **bfd multihop interval**
 - **bfd multihop authentication**
- BGPでは、ルートアドバタイズメントのコンバージェンス時間が短縮されます。ルートアドバタイズメント (RA) リンクレベルプロトコルの検出を高速化するには、IPv4 および IPv6 アドレス ファミリの IPv6 リンクローカル経由 BGP インターフェイスピアリングを使用する各 IPv6 対応インターフェイスで次のコマンドを入力します。

```
interface Ethernet port/slot
ipv6 nd ra-interval 4 min 3
ipv6 nd ra-lifetime 10
```

- リンクローカルでBGPネイバーを設定する場合は、TCAM 「in-sup」 を512から768にカスタマイズする必要があります。

デフォルト設定

高度な BGP パラメータのデフォルト設定値を表に示します。

パラメータ	デフォルト
BGP 機能	ディセーブル
BGP の追加パス	ディセーブル
キープアライブインターバル	60 秒
ホールドタイマー	180 秒
ダイナミック機能	有効 (Enabled)

拡張 BGP の設定

インターフェイスでの IP 転送の有効化

RFC 5549 を使用するには、少なくとも 1 つの IPv4 アドレスを設定する必要があります。IPv4 アドレスを設定しない場合は、RFC 5549 を使用するように IP 転送機能を有効にする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	interface type slot/port 例： switch(config)# interface ethernet 1/2 switch(config-if)#	インターフェイス設定モードを開始します。
ステップ 3	ip forward 例： switch(config-if)# ip forward	インターフェイスに IP アドレスが設定されていない場合でも、そのインターフェイスで IPv4 トラフィックを許可します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config-if)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

BGP セッション テンプレートの設定

BGP セッション テンプレートを使用すると、類似した設定が必要な複数の BGP ピアで、BGP の設定を簡素化できます。BGP テンプレートによって、共通のコンフィギュレーションブロックを再利用できます。先に BGP テンプレートを設定し、BGP ピアにテンプレートを適用します。

BGP セッション テンプレートでは、継承、パスワード、タイマー、セキュリティなどのセッション属性を設定できます。

peer-session テンプレートは、別の peer-session テンプレートからの継承が可能です。第 3 のテンプレートから継承するように第 2 テンプレートを設定できます。さらに最初のテンプレート

もこの第3のテンプレートから継承させることができます。この間接継承を続けることができる peer-session テンプレートの数は、最大7つです。

ネイバーに設定した属性は、ネイバーが BGP テンプレートから継承した属性よりも優先されます。

始める前に

BGP を有効にする必要があります（「[BGP の有効化](#)」の項を参照）。



(注) テンプレートを編集するときには、ピアまたはテンプレートのレベルで **no** 形式のコマンドを使用すると、テンプレートの設定を明示的に上書きできます。属性をデフォルトの状態にリセットするには、**default** 形式のコマンドを使用する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router bgp autonomous-system-number 例： switch(config)# router bgp 65535 switch(config-router)#	BGP を有効にして、ローカル BGP スピーカーに自律システム番号を割り当てます。
ステップ 3	template peer-session template-name 例： switch(config-router)# template peer-session BaseSession switch(config-router-stmp)#	peer-session テンプレート コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	(任意) password number password 例： switch(config-router-stmp)# password 0 test	ネイバーにクリアテキストのパスワード「test」を追加します。パスワードは 3DES（タイプ 3 暗号形式）で保存および表示されます。
ステップ 5	(任意) timers keepalive hold 例： switch(config-router-stmp)# timers 30 90	peer-session テンプレートに BGP キープアライブおよびホールドタイマー値を追加します。 デフォルトのキープアライブインターバルは 60 です。デフォルトのホールドタイムは 180 です。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	exit 例： switch(config-router-stmp)# exit switch(config-router)#	peer-session テンプレート コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	neighbor ip-address remote-as as-number 例： switch(config-router)# neighbor 192.168.1.2 remote-as 65535 switch(config-router-neighbor)#	BGP ルーティング用のネイバー コンフィギュレーションモードを開始し、ネイバー IP アドレスを設定します。
ステップ 8	inherit peer-session template-name 例： switch(config-router-neighbor)# inherit peer-session BaseSession switch(config-router-neighbor)#	ピアに peer-session テンプレートを適用します。
ステップ 9	(任意) description text 例： switch(config-router-neighbor)# description Peer Router A switch(config-router-neighbor)#	ネイバーの説明を追加します。
ステップ 10	(任意) show bgp peer-session template-name 例： switch(config-router-neighbor)# show bgp peer-session BaseSession	peer-policy テンプレートを表示します。
ステップ 11	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config-router-neighbor)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。 show bgp neighbor コマンドを使用し、コマンドを実行して、適用されたテンプレートを確認します。

例

BGP peer-session テンプレートを設定して、BGP ピアに適用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 65536
switch(config-router)# template peer-session BaseSession
switch(config-router-stmp)# timers 30 90
switch(config-router-stmp)# exit
switch(config-router)# neighbor 192.168.1.2 remote-as 65536
switch(config-router-neighbor)# inherit peer-session BaseSession
```

```
switch(config-router-neighbor)# description Peer Router A
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-neighbor-af)# copy running-config startup-config
```

BGP peer-policy テンプレートの設定

peer-policy テンプレートを設定すると、特定のアドレスファミリーに対応する属性を定義できます。各 peer-policy テンプレートにプリファレンスを割り当て、指定した順序でテンプレートが継承されるようにします。ネイバー アドレス ファミリーでは最大 5 つの peer-policy テンプレートを使用できます。

Cisco NX-OS は、プリファレンス値を使用して、アドレス ファミリーの複数のピア ポリシーを評価します。プリファレンス値が最小のものが最初に評価されます。ネイバーに設定した属性は、ネイバーが BGP テンプレートから継承した属性よりも優先されます。

peer-policy テンプレートでは、AS-path フィルタリスト、プレフィックスリスト、ルートリフレクション、ソフト再構成など、アドレス ファミリー固有の属性を設定できます。



- (注) **show bgp neighbor** コマンドを使用し、コマンドを実行して、適用されたテンプレートを確認します。テンプレートで使用できる全コマンドの詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Unicast Routing Command Reference』を参照してください。

始める前に

BGP を有効にする必要があります（「[BGP の有効化](#)」の項を参照）。



- (注) テンプレートを編集するときには、ピアまたはテンプレートのレベルで **no** 形式のコマンドを使用すると、テンプレートの設定を明示的に上書きできます。属性をデフォルトの状態にリセットするには、**default** 形式のコマンドを使用する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal	コンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 2	router bgp autonomous-system-number 例： switch(config)# router bgp 65535 switch(config-router)#	BGP を有効にして、ローカル BGP スピーカに自律システム番号を割り当てます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	template peer-session <i>template-name</i> 例： switch(config-router)# template peer-policy BasePolicy switch(config-router-ptmp)#	peer-policy テンプレートを作成します。
ステップ 4	(任意) advertise-active-only 例： switch(config-router-ptmp)# advertise-active-only	アクティブルートのみをピアにアドバタイズします。
ステップ 5	(任意) maximum-prefix <i>number</i> 例： switch(config-router-ptmp)# maximum-prefix 20	このピアに認めるプレフィックスの最大数を設定します。
ステップ 6	exit 例： switch(config-router-ptmp)# exit switch(config-router)#	peer-policy テンプレート コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	neighbor <i>ip-address</i> remote-as <i>as-number</i> 例： switch(config-router)# neighbor 192.168.1.2 remote-as 65535 switch(config-router-neighbor)#	BGP ルーティング用のネイバー コンフィギュレーションモードを開始し、ネイバー IP アドレスを設定します。
ステップ 8	address-family {<i>ipv4</i> <i>ipv6</i>} {<i>multicast</i> <i>unicast</i>} 例： switch(config-router-neighbor)# address-family <i>ipv4</i> <i>unicast</i> switch(config-router-neighbor-af)#	指定のアドレスファミリーに対しグローバルアドレスファミリー設定モードを開始します。
ステップ 9	inherit peer-policy <i>template-name</i> <i>preference</i> 例： switch(config-router-neighbor-af)# inherit peer-policy BasePolicy 1	ピア アドレス ファミリ設定に peer-policy テンプレートを適用し、このピアポリシーのプリファレンス値を割り当てます。
ステップ 10	(任意) show bgp peer-policy <i>template-name</i> 例： switch(config-router-neighbor-af)# show bgp peer-policy BasePolicy	peer-policy テンプレートを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config-router-neighbor-af) # copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。 show bgp neighbor コマンドを使用し、コマンドを実行して、適用されたテンプレートを確認します。

例

BGP peer-policy テンプレートを設定して、BGP ピアに適用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 65536
switch(config-router)# template peer-session BasePolicy
switch(config-router-ptmp)# maximum-prefix 20
switch(config-router-ptmp)# exit
switch(config-router)# neighbor 192.168.1.1 remote-as 65536
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-neighbor-af)# inherit peer-policy BasePolicy
switch(config-router-neighbor-af)# copy running-config startup-config
```

BGP peer テンプレートの設定

BGP peer テンプレートを設定すると、1つの再利用可能なコンフィギュレーションブロックで、セッション属性とポリシー属性を結合することができます。peer テンプレートも、peer-session または peer-policy テンプレートを継承できます。ネイバーに設定した属性は、ネイバーが BGP テンプレートから継承した属性よりも優先されます。ネイバーに設定できる peer テンプレートは1つだけですが、peer テンプレートは peer-session および peer-policy テンプレートを継承できます。

peer テンプレートは、eBGP マルチホップ TTL、最大プレフィックス数、ネクストホップセルフ、タイマーなど、セッション属性およびアドレスファミリー属性をサポートします。

始める前に

BGP を有効にする必要があります（「[BGP の有効化](#)」の項を参照）。



- (注) テンプレートを編集するときには、ピアまたはテンプレートのレベルで **no** 形式のコマンドを使用すると、テンプレートの設定を明示的に上書きできます。属性をデフォルトの状態にリセットするには、**default** 形式のコマンドを使用する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router bgp <i>autonomous-system-number</i> 例： switch(config)# router bgp 65535	BGP モードを開始し、ローカル BGP スピーカに自律システム番号を割り当てます。
ステップ 3	template peer <i>template-name</i> 例： switch(config-router)# template peer BasePeer	peer テンプレート コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	(任意) inherit peer-session <i>template-name</i> 例： switch(config-router-neighbor)# inherit peer-session BaseSession	ピア テンプレートに peer-session テンプレートを適用します。
ステップ 5	(任意) address-family {ipv4 ipv6} {multicast unicast} 例： switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-neighbor-af)	指定のアドレスファミリーに対しグローバル アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを設定します。
ステップ 6	(任意) inherit peer-policy <i>template-name</i> 例： switch(config-router-neighbor-af)# inherit peer-policy BasePolicy 1	ネイバー アドレス ファミリ設定に peer-policy テンプレートを適用します。
ステップ 7	exit 例： switch(config-router-neighbor-af)# exit	BGP ネイバー アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 8	(任意) timers <i>keepalive hold</i> 例： switch(config-router-neighbor)# timers 45 100	ピアに BGP タイマー値を追加します。 これらの値によって、peer-session テンプレート、BaseSession のタイマー値が上書きされます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	exit 例： switch(config-router-neighbor)# exit	BGP ネイバー コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 10	neighbor ip-address remote-as as-number 例： switch(config-router)# neighbor 192.168.1.2 remote-as 65535 switch(config-router-neighbor)#	BGP ルーティング用のネイバー設定 モードを開始し、ネイバー IP アドレス を設定します。
ステップ 11	inherit peer template-name 例： switch(config-router-neighbor)# inherit peer BasePeer	peer テンプレートを継承します。
ステップ 12	(任意) timers keepalive hold 例： switch(config-router-neighbor)# timers 60 120	このネイバーに BGP タイマー値を追加 します。 これらの値によって、peer テンプレー トおよび peer-session テンプレートのタ イマー値が上書きされます。
ステップ 13	(任意) show bgp peer-template template-name 例： switch(config-router-neighbor)# show bgp peer-template BasePeer	peer テンプレートを表示します。
ステップ 14	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config-router-neighbor)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。 show bgp neighbor コマンドを使用し、 コマンドを実行して、適用されたテン プレートを確認します。

例

BGP peer テンプレートを設定して、BGP ピアに適用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 65536
switch(config-router)# template peer BasePeer
switch(config-router-neighbor)# inherit peer-session BaseSession
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-neighbor-af)# inherit peer-policy BasePolicy 1
switch(config-router-neighbor-af)# exit
switch(config-router-neighbor)# exit
switch(config-router)# neighbor 192.168.1.2 remote-as 65536
```

```
switch(config-router-neighbor)# inherit peer BasePeer
switch(config-router-neighbor)# copy running-config startup-config
```

プレフィックスピアリングの設定

BGP では、IPv4 と IPv6 の両方のプレフィックスを使用してピアセットを定義できます。この機能を使用すると、各ネイバーを設定に追加する必要がありません。

プレフィックスピアリングを定義する場合は、プレフィックスとともにリモート AS 番号を指定する必要があります。プレフィックスピアリングが設定されている許容最大ピア数を超えない場合、BGP はプレフィックスおよび自律システムから接続するピアを受け付けます。

プレフィックスピアリングに含まれている BGP ピアが切断されると、Cisco NX-OS は定義されているプレフィックスピアタイムアウト値まで、ピア構造を維持します。この場合、そのプレフィックスピアリングのすべてのスロットを他のピアが使い果たした結果、ブロックされるという危険性を伴わずに、確立されたピアのリセットまたは再接続が可能になります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>timers prefix-peer-timeout value</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# timers prefix-peer-timeout 120</pre>	<p>ルータ コンフィギュレーション モードで BGP プレフィックスピアリングのタイムアウト値を設定します。有効な範囲は 0 ~ 1200 秒です。デフォルト値は 30 秒です。</p> <p>(注) プレフィックスピアの場合は、プレフィックスピアタイムアウトを、設定されたグレースフルリスタートタイマーよりも大きく設定します。プレフィックスピアタイムアウトがグレースフルリスタートタイマーよりも大きければ、ピアのルートは再起動中に保持されます。プレフィックスピアタイムアウトがグレースフルリスタートタイマーよりも小さいと、ピアのルートはプレフィックスピアタイムアウトによって消去されます。これは、再起動が完了する前に発生する可能性があります。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	maximum-peers value 例 : <pre>switch(config-router-neighbor)# maximum-peers 120</pre>	ネイバー設定モードのこのプレフィックス ピアリングの最大ピア数を設定します。範囲は 1 ~ 1000 です。

例

最大 10 のピアを受け付けるプレフィックス ピアリングの設定例を示します。

```
switch(config)# router bgp 65536
switch(config-router)# timers prefix-peer-timeout 120
switch(config-router)# neighbor 10.100.200.0/24 remote-as 65536
switch(config-router-neighbor)# maximum-peers 10
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-neighbor-af)#
```

show bgp ipv4 unicast neighbors コマンドを使用し、すると、所定のプレフィックスピアリングの設定の詳細とともに、現在受け付けられているインスタンスのリスト、アクティブピア数、最大同時ピア数、および受け付けたピアの合計数を表示できます。

IPv4 および IPv6 アドレス ファミリ向け IPv6 リンク ローカル経由の BGP インターフェイス ピアリングの設定

アンナンバードインターフェイスを使用した自動 BGP ネイバー探索のために、IPv4 および IPv6 アドレスファミリの IPv6 リンクローカルを経由して、BGP インターフェイスピアリングを設定できます。これにより、インターフェイス名を（インターフェイススコープのアドレスではなく）BGP ピアとして使用する BGP セッションを設定できます。この機能は、ICMPv6 ネイバー探索（ND）のルートアドバタイズメント（RA）を使用して自動ネイバー探索を行い、RFC 5549を使用して IPv6 ネクストホップで IPv4 ルートを送信します。

始める前に

BGP をイネーブルにする必要があります（「[BGP のイネーブル化](#)」の項を参照）。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal</pre>	コンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 2	router bgp autonomous-system-number 例 :	BGP をイネーブルにして、ローカル BGP スピーカに自律システム番号を割り当てます。AS 番号は 16 ビット整数または

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch(config)# router bgp 65535 switch(config-router)#</pre>	32 ビット整数にできます。上位 16 ビット 10 進数と下位 16 ビット 10 進数による xx.xx という形式です。
ステップ 3	<p>neighbor interface-name remote-as as-number</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router)# neighbor Ethernet1/1 remote-as 65535 switch(config-router-neighbor)#</pre>	<p>BGP ルーティングのためにルータをネイバー コンフィギュレーション モードにして、インターフェイスを BGP ピア用に設定します。</p> <p>(注) 指定できるのは、イーサネット インターフェイス、ポート チャネル インターフェイス、サブインターフェイス、およびブレイクアウト インターフェイスだけです。</p> <p>Cisco NX-OS リリース 9.3(6) 以降では、VLAN インターフェイスを指定でき、AS リストを含められるルートマップを指定できます。</p>
ステップ 4	<p>inherit peer template-name</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# inherit peer PEER</pre>	peer テンプレートを継承します。
ステップ 5	<p>address-family {ipv4 ipv6} unicast</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-neighbor-af)#</pre>	指定のアドレス ファミリーに対しグローバル アドレス ファミリー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<p>(任意) show bgp {ipv4 ipv6} unicast neighbors interface</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af)# show bgp ipv4 unicast neighbors e1/25</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af)# show bgp ipv6 unicast neighbors 3FFE:700:20:1::11</pre>	BGP ピアに関する情報を表示します。
ステップ 7	<p>(任意) show ip bgp neighbors interface-name</p> <p>例 :</p>	BGP ピアとして使用されるインターフェイスを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
	switch(config-router-neighbor-af)# show ip bgp neighbors Ethernet1/1	
ステップ 8	(任意) show ipv6 routers [interface interface] 例 : switch(config-router-neighbor-af)# show ipv6 routers interface Ethernet1/1	IPv6 ICMP ルータ アドバタイズメントによって学習されたリモート IPv6 ルータのリンクローカルアドレスを表示します。
ステップ 9	(任意) copy running-config startup-config 例 : switch(config-router-neighbor-af)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

例

次に、IPv4 および IPv6 アドレス ファミリの IPv6 リンクローカル経由で、BGP インターフェイス ピアリングを設定する例を示します。

リーフ 1 の iBGP インターフェイス ピアリング設定 :

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 65000
switch(config-router)# neighbor Ethernet1/1 remote-as 65000
switch(config-router-neighbor)# inherit peer PEER
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv6 unicast
switch(config-router-neighbor-af)# copy running-config startup-config
```

次に、IPv4 および IPv6 アドレス ファミリの IPv6 リンクローカル経由での、BGP インターフェイス ピアリングのサンプル出力例を示します。

```
switch(config-router-neighbor)# show bgp ipv4 unicast neighbors e1/15.1
BGP neighbor is fe80::2, remote AS 100, ibgp link, Peer index 4
Peer is an instance of interface peering Ethernet1/15.1
BGP version 4, remote router ID 5.5.5.5
Neighbor previous state = OpenConfirm
BGP state = Established, up for 2d16h
Neighbor vrf: default
Peer is directly attached, interface Ethernet1/15.1
Last read 00:00:54, hold time = 180, keepalive interval is 60 seconds
Last written 00:00:08, keepalive timer expiry due 00:00:51
Received 3869 messages, 0 notifications, 0 bytes in queue
Sent 3871 messages, 0 notifications, 0(0) bytes in queue
Enhanced error processing: On
0 discarded attributes
Connections established 2, dropped 1
Last reset by peer 2d16h, due to session closed
Last error length received: 0
Reset error value received 0
Reset error received major: 104 minor: 0
Notification data received:
Last reset by us never, due to No error
```

```
Last error length sent: 0
Reset error value sent: 0
Reset error sent major: 0 minor: 0
--More--
```

インターフェイス コンフィギュレーション :

次のいずれかのコマンドを使用して、対応するインターフェイスで IPv6 を有効にする必要があります。

- **ipv6 address** *ipv6-address*
- **ipv6 address use-link-local-only**
- **ipv6 link-local** *link-local-address*

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface Ethernet1/1
switch(config-if)# ipv6 address use-link-local-only
```



- (注) インターフェイスで IPv4 アドレスが設定されていない場合は、**ip forward** コマンドをインターフェイスで設定して IPv4 転送を有効にする必要があります。



- (注) IPv6 ND タイマーを調整して、ネイバー探索を高速化し、BGP のルートコンバージェンスを高速化できます。

```
switch(config-if)# ipv6 nd ra-interval 4 min 3
switch(config-if)# ipv6 nd ra-lifetime 10
```



- (注) Cisco NX-OS リリース 9.3(6) 以降で、パラレルリンクを使用するカスタマーの導入では、インターフェイスモードで次のコマンドを追加する必要があります。

```
switch(config-if)# ipv6 link-local use-bia
```

このコマンドは、異なるインターフェイス間での IPv6 LLA を一意にします。

BGP 認証の設定

MD5 ダイジェストを使用してピアからのルート更新を認証するように、BGP を設定できます。MD5 ダイジェストを使用するように BGP を設定するには、ネイバー コンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	password {0 3 7} string 例 : <pre>switch(config-router-neighbor) # password BGPpassword</pre>	MGP ネイバーセッションの MD5 パスワードを設定します。

BGP セッションのリセット

BGP のルートポリシーを変更した場合は、関連付けられた BGP ピアセッションをリセットする必要があります。BGP ピアがルートリフレッシュをサポートしない場合は、着信ポリシー変更に関するソフト再構成を設定できます。Cisco NX-OS は自動的に、セッションのソフトリセットを試みます。

ソフト再構成着信を設定するには、ネイバーアドレスファミリ設定モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	soft-reconfiguration inbound 例 : <pre>switch(config-router-neighbor-af) # soft-reconfiguration inbound</pre>	着信 BGP ルートアップデートを格納するために、ソフト再構成をイネーブルにします。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動ソフトクリアまたはリフレッシュが開始されます。
ステップ 2	(任意) clear bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} ip-address soft {in out} 例 : <pre>switch# clear bgp ip unicast 192.0.2.1 soft in</pre>	TCP セッションを切断しないで、BGP セッションをリセットします。
ステップ 3	clear bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} ip-address soft (in out) 例 : <pre>switch# clear bgp ip unicast 192.0.2.1 soft in</pre>	TCP セッションを切断しないで、BGP セッションをリセットします。

ネクストホップアドレスの変更

次の方法で、ルートアドバタイズメントで使用するネクストホップアドレスを変更できます。

- ネクストホップ計算をディセーブルにして、ローカル BGP スピーカ アドレスをネクストホップアドレスとして使用します。
- ネクストホップアドレスをサードパーティアドレスとして設定します。この機能は、元のネクストホップアドレスがルートの送り先のピアと同じサブネット上にある場合に使用します。この機能を使用すると、フォワーディング時に余分なホップを節約できます。

ネクストホップアドレストラッキングを変更するには、アドレスファミリ コンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	next-hop-self 例： <pre>switch(config-router-neighbor-af)# next-hop-self</pre>	ルートアップデートのネクストホップアドレスとして、ローカル BGP スピーカアドレスを使用します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動ソフトクリアまたはリフレッシュが開始されます。
ステップ 2	next-hop-third-party 例： <pre>switch(config-router-neighbor-af)# next-hop-third-party</pre>	ネクストホップアドレスをサードパーティアドレスとして設定します。このコマンドは、 next-hop-self が設定されていないシングルホップの EBGP ピアに使用します。configured.

BGP ネクストホップアドレストラッキングの設定

BGP ネクストホップアドレストラッキングはデフォルトで有効であり、無効にすることができません。

BGP ネクストホップトラッキングのパフォーマンスを向上するために、RIB チェック間の遅延インターバルを変更できます。

BGP ネクストホップアドレストラッキングを変更するには、アドレスファミリ設定モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	nexthop trigger-delay {critical non-critical} milliseconds 例： <pre>switch(config-router-af)# nexthop trigger-delay critical 5000</pre>	クリティカルなネクストホップの到達可能性ルートおよび非クリティカルなルートについて、ネクストホップアドレストラッキングの遅延タイマーを指定します。指定できる範囲は 1 ~

	コマンドまたはアクション	目的
		4294967295 ミリ秒です。クリティカル タイマーのデフォルトは 3000 です。非クリティカル タイマーのデフォルトは 10000 です。

ネクスト ホップ フィルタリング の設定

BGP ネクストホップ フィルタリングを使用すると、RIB でネクストホップ アドレスがチェックされるときにそのネクストホップ アドレスの基盤となるルートがルート マップを経由します。ルート マップでそのルートが拒否されると、ネクストホップ アドレスは到達不能として扱われます。

BGP は、ルート ポリシーによって拒否されたすべてのネクストホップを無効であるとマークし、無効なネクストホップ アドレスを使用するルートについてベストパスを計算しません。

BGP ネクストホップ フィルタリングを設定するには、アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	nexthop route-map name 例： switch(config-router-af)# nexthop route-map nextHopLimits	BGP ネクストホップ ルートが一致するルート マップを指定します。63 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。

デフォルト ルートによるネクストホップ解決の設定

BGP ネクストホップ解決では、IP デフォルト ルートを BGP ネクストホップ解決に使用するかどうかを指定できます。

BGP ネクストホップ解決を設定するには、ルータ設定モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	[no] nexthop suppress-default-resolution 例： switch(config-router)# nexthop suppress-default-resolution	IP デフォルト ルートを介した BGP ネクストホップの解決を防止します。 このコマンドを有効にすると、以下のようになります。 • show bgp process detail コマンドの出力には、次の行が含まれます。

	コマンドまたはアクション	目的
		Use default route for nexthop Resolution : No • show routing clients bgp コマンドの出力には、次の行が含まれます。 Owned rnh will never resolve to 0.0.0.0/0

ネクストホップセルフによるリフレクトルートの制御

NX-OS では、**next-hop-self** [all] 引数を使用して特定のピアに送信する際の iBGP ルートを制御できます。これらの引数を使用すると、ルートのリフレクトが実施されている場合でも、ルートのネクストホップを選択的に変更できます。

コマンド	目的
next-hop-self [all] 例： <pre>switch(config-router-af)# next-hop-self all</pre>	ルートアップデートのネクストホップアドレスとして、ローカル BGP スピーカアドレスを使用します。 all キーワードはオプションです。all を指定すると、すべてのルートが next-hop-self を使用するピアに送信されます。all を指定しなかった場合、リフレクトしたルートのネクストホップは変更されません。

セッションがダウンした場合のネクストホップグループの縮小

セッションがダウンしたときに迅速な方法で ECMP グループを縮小するように BGP を設定できます。

この機能は、次の BGP パス障害イベントに適用されます。

- 1 つまたは複数のレイヤ 3 リンクの障害
- ラインカード障害
- BGP ネイバーの BFD 障害検出
- BGP ネイバーの管理上のシャットダウン (shutdown コマンドを使用)

最初の 2 つのイベント (レイヤ 3 リンク障害とラインカード障害) の迅速な処理はデフォルトでイネーブルになっており、イネーブルにするための設定コマンドは必要ありません。

最後の 2 つのイベントの迅速な処理を設定するには、ルータ設定モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	neighbor-down fib-accelerate 例： <pre>switch(config-router)# neighbor-down fib-accelerate</pre>	BGP セッションがダウンするたびに、すべてのネクストホップグループ（ECMPグループと単一のネクストホップルート）から対応する次のネクストホップを取り消します。 （注） このコマンドは、IPv4 ルートと IPv6 ルートの両方に適用されます。

機能ネゴシエーションのディセーブル化

機能ネゴシエーションをディセーブルにすると、機能ネゴシエーションをサポートしない古い BGP ピアとの相互運用が可能です。

機能ネゴシエーションをディセーブルにするには、ネイバー コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	dont-capability-negotiate 例： <pre>switch(config-router-neighbor)# dont-capability-negotiate</pre>	機能ネゴシエーションをディセーブルにします。このコマンドの設定後、BGP セッションを手動でリセットする必要があります。

ポリシーのバッチ処理の無効化

プレフィックスに一意の属性がある BGP 展開では、BGP は、同じ BGP アップデートメッセージでバンドルする類似の属性を持つルートを識別しようとします。この追加の BGP 処理のオーバーヘッドを回避するには、バッチ処理をディセーブルにします。

固有のネクストホップを持つ多数のルートがある BGP 展開では、ポリシーバッチ処理を無効にすることを推奨します。

ポリシーバッチ処理を無効にするには、ルータ設定モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	disable-policy-batching 例 : <pre>switch(config-router) # disable-policy-batching</pre>	すべてのピアへのプレフィックスアドバタイズメントのバッチ評価をディセーブルにします。

BGP 追加パスの設定

BGP は、プレフィックスごとの複数パスの送受信と、このパスのアドバタイズをサポートします。

追加パスの送受信機能のアドバタイズ

BGP ピア間の追加パスの送受信機能をアドバタイズするように BGP を設定できます。これを行うには、ネイバー アドレス ファミリ設定モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	[no] capability additional-paths send [disable] 例 : <pre>switch(config-router-neighbor-af) # capability additional-paths send</pre>	BGP ピアに追加パスを送信する機能をアドバタイズします。 disable オプションは、追加パス送信機能のアドバタイズをディセーブルにします。 このコマンドの no 形式を使用すると、追加パスの送信機能がディセーブルになります。
ステップ 2	[no] capability additional-paths receive [disable] 例 : <pre>switch(config-router-neighbor-af) # capability additional-paths receive</pre>	BGP ピアから追加パスを受信する機能をアドバタイズします。 disable オプションは、追加パス受信機能のアドバタイズをディセーブルにします。 このコマンドの no 形式は、追加パスの受信機能をディセーブルにします。
ステップ 3	show bgp neighbor 例 : <pre>switch(config-router-neighbor-af) # show bgp neighbor</pre>	ローカル ピアがリモート ピアへの追加パス送受信機能をアドバタイズしたかを表示します。

例

BGP ピアに追加のパスを送受信する機能をアドバタイズする BGP の設定例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 100
switch(config-router)# neighbor 10.131.31.2 remote-as 100
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-neighbor-af)# capability additional-paths send
switch(config-router-neighbor-af)# capability additional-paths receive
```

追加パスの送受信の設定

BGP ピア間の追加パスの送受信機能を設定できます。これを行うには、アドレス ファミリ設定モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	[no] additional-paths send 例： switch(config-router-af)# additional-paths send	機能が無効になっていないこのアドレスファミリで、すべてのネイバーの追加パスの送信機能を有効にします。 このコマンドの no 形式を使用すると、送信機能が無効になります。
ステップ 2	[no] additional-paths receive 例： switch(config-router-af)# additional-paths receive	機能が無効になっていないこのアドレスファミリで、すべてのネイバーの追加パスの受信機能を有効にします。 このコマンドの no 形式を使用すると、受信機能が無効になります。
ステップ 3	show bgp neighbor 例： switch(config-router-af)# show bgp neighbor	ローカル ピアがリモート ピアへの追加パス送受信機能をアドバタイズしたものと表示します。

例

機能が無効になっていない指定されたアドレスファミリで、すべてのネイバーの追加パスの受信機能を有効にする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 100
switch(config-router)# address-family ipv4 unicast
```

```
switch(config-router-af)# additional-paths send
switch(config-router-af)# additional-paths receive
```

アドバタイズされるパスの設定

BGPにアドバタイズされたパスを指定できます。これを行うには、ルートマップコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>[no] set ip next-hop unchanged</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-route-map)# set ip next-hop unchanged</pre>	<p>不変のネクストホップ IP アドレスを指定します。</p>
ステップ 2	<p>[no] set path-selection { all backup best2 multipaths } advertise</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-route-map)# set path-selection all advertise</pre>	<p>すべてのパスが指定されたプレフィックスにアドバタイズされるように指定します。次のいずれかのオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • all : 使用可能なすべての有効なパスをアドバタイズします。 • backup : バックアップパスとしてマークされたパスをアドバタイズします。このオプションでは、additional-path install backup コマンドを使用してバックアップパスを有効にする必要があります。 • best2 : 2番目に最適なパスをアドバタイズします。これは、すでに計算されているベストパスを除き、残りの使用可能なパスのベストパスです。 • multipaths : すべてのマルチパスをアドバタイズします。このオプションでは、maximum-paths コマンドを使用してマルチパスを有効にする必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) マルチパスがない場合、<code>backup</code> オプションと <code>best2</code> オプションは同じです。マルチパスがある場合、<code>best2</code> はマルチパスのリストの最初のパスで、バックアップは計算されたベストパスとマルチパスを除くすべての使用可能なパスのベストパスです。</p> <p>このコマンドの <code>no</code> 形式は、最適パスだけがアドバタイズされるように指定します。</p>
ステップ 3	<p><code>show bgp {ipv4 ipv6} unicast [ip-address ipv6-prefix] [vrf vrf-name]</code></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-route-map)# show bgp ipv4 unicast</pre>	<p>プレフィックスの追加パスのパス ID とこれらのパスのアドバタイズメント情報を表示します。</p>

例

すべてのパスがプレフィックス リスト p1 にアドバタイズされるよう指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# route-map PATH_SELECTION_RMAP
switch(config-route-map)# match ip address prefix-list p1
switch(config-route-map)# set path-selection all advertise
```

追加パス選択の設定

プレフィックスに追加のパスを選択する機能を設定できます。これを行うには、アドレスファミリー コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><code>[no] additional-paths selection route-map map-name</code></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-af)# additional-paths selection route-map map1</pre>	<p>プレフィックスに追加のパスを選択する機能を設定します。</p> <p>このコマンドの <code>no</code> 形式は、追加パス選択機能をディセーブルにします。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<pre>{ } [ip-address ipv6-prefix] [vrf-name] show bgpipv4ipv6unicastvrf</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config-route-af)# show bgp ipv4 unicast</pre>	<p>プレフィックスの追加パスのパス ID とこれらのパスのアドバタイズメント情報を表示します。</p>

例

指定されたアドレス ファミリで追加パス選択を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 100
switch(config-router)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-af)# additional-paths selection route-map PATH_SELECTION_RMAP
```

eBGP の設定

eBGP シングルホップ チェックの無効化

シングルホップ eBGP ピアがローカルルータに直接接続されているかどうかのチェック機能を無効にするように、eBGP を設定できます。このオプションは、直接接続されたスイッチ間のシングルホップ ループバック eBGP セッションの設定に使用します。

シングルホップ eBGP ピアが直接接続されているかどうかのチェックを無効にするには、ネイバー設定モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>disable-connected-check</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# disable-connected-check</pre>	<p>シングルホップ eBGP ピアが直接接続されているかどうかのチェックを無効にします。このコマンドの使用後、BGP セッションを手動でリセットする必要があります。</p>

eBGP マルチホップの設定

eBGP マルチホップをサポートする eBGP 存続可能時間 (TTL) 値を設定できます。eBGP ピアは状況によって、別の eBGP ピアに直接接続されず、リモート eBGP ピアに到達するために複数のホップを必要とします。ネイバーセッションに eBGP TTL 値を設定すると、このようなマルチホップセッションが可能になります。



(注) この設定は、BGP インターフェイス ピアリングではサポートされません。

eBGP マルチホップを設定するには、ネイバー コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ebgp-multihop ttl-value 例 : <pre>switch(config-router-neighbor) # ebgp-multihop 5</pre>	eBGP マルチホップの eBGP TTL を設定します。有効な範囲は 2～255 です。このコマンドの使用後、BGP セッションを手動でリセットする必要があります。

高速外部フォールオーバーの無効化

Cisco NX-OS デバイスは、すべての VRF のネイバーおよびアドレス ファミリ (IPv4 または IPv6) の高速外部フォールオーバーをデフォルトでサポートします。通常、BGP ルータと直接接続 eBGP ピア間の接続が失われると、ピアとの eBGP セッションをリセットすることによって、BGP が高速外部フォールオーバーを開始します。この高速外部フォールオーバーをディセーブルにすると、リンク フラップが原因の不安定さを制限できます。

高速外部フォールオーバーをディセーブルにするには、ルータ コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	no fast-external-fallover 例 : <pre>switch(config-router) # no fast-external-fallover</pre>	eBGP ピアの高速外部フォールオーバーをディセーブルにします。このコマンドは、デフォルトでイネーブルになっています。

AS パス属性の制限

AS パス属性で自律システム番号が高いルートを廃棄するように eBGP を設定できます。

AS パス属性で AS 番号の多いルートを廃棄するには、ルータ コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	maxas-limit number 例 : <pre>switch(config-router)# maxas-limit 50</pre>	ASパスセグメントの番号が指定された上限を超えている eBGP ルートを廃棄します。指定できる範囲は 1 ~ 2000 です。

ローカル AS サポートの設定

ローカル AS 機能では、ルータが実際の AS に加えて、2 番目の自律システム (AS) のメンバであるように見せることができます。ローカル AS を使用すると、ピアリングの調整を変更せずに 2 つの ISP をマージできます。マージされた ISP 内のルータは、新しい自律システムのメンバになりますが、使用者に対しては古い自律システム番号を使用し続けます。

この機能は、正しい eBGP ピアにしか使用できません。別のコンフェデレーションのサブ自律システムのメンバである 2 ピアに対しては、この機能は使用できません。

さらに、remote-as コマンドで設定されたリモートピアの ASN は、local-as コマンドで設定されたローカルデバイスの ASN と同一にすることはできません。

eBGP ローカル AS のサポートを設定するには、ネイバー コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	local-as number [no-prepend [replace-as [dual-as]]] 例 : <pre>switch(config-router-neighbor)# local-as 1.1</pre>	AS_PATH 属性にローカル AS の number を付加するよう eBGP を設定します。AS 番号は 16 ビット整数または 32 ビット整数にできます。上位 16 ビット 10 進数と下位 16 ビット 10 進数による xx.xx という形式です。

例

次に、VRF のローカル AS サポートを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 1
switch(config-router)# vrf test
switch(config-router-vrf)# local-as 1
switch(config-router-vrf)# show running-config bgp
```

AS 連合の設定

AS連合を設定するには、連合識別情報を指定する必要があります。AS連合内の自律システムグループは、自律システム番号として連合 ID を持つ、1つの自律システムとして外部で認識されます。

BGP 連合 ID を設定するには、ルータ設定モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	confederation identifier as-number 例 : <pre>switch(config-router)# confederation identifier 4000</pre>	ルータ設定モードで、このコマンドは BGP 連合 ID を設定します。 このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動通知およびセッションリセットが開始されます。
ステップ 2	bgp confederation peers as-number [as-number2...] 例 : <pre>switch(config-router)# bgp confederation peers 5 33 44</pre>	ルータ設定モードで、このコマンドは AS 連合に属する自律システムを設定します。 このコマンドは、連合に属する自律システムのリストを指定し、BGP ネイバーセッションの自動通知とセッションリセットをトリガーします。

ルート リフレクタの設定

ルートリフレクタとして動作するローカル BGP スピーカに対するルートリフレクタクライアントとして、iBGP ピアを設定できます。ルートリフレクタとそのクライアントがともにクラスタを形成します。クライアントからなるクラスタには通常、ルートリフレクタが1つ存在します。このような状況では、ルートリフレクタのルータ ID でクラスタを識別します。ネットワークの冗長性を高め、シングルポイント障害を回避するために、複数のルートリフレクタからなるクラスタを設定できます。クラスタ内のすべてのルートリフレクタは、同じ4バイトクラスタ ID で設定する必要があります。これは、ルートリフレクタが同じクラスタ内のルートリフレクタからのアップデートを認識できるようにするためです。

始める前に

BGPをイネーブルにする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router bgp as-number 例： switch(config)# router bgp 65535 switch(config-router)#	BGP モードを開始し、ローカル BGP スピーカに自律システム番号を割り当てます。
ステップ 3	cluster-id cluster-id 例： switch(config-router)# cluster-id 192.0.2.1	クラスタに対応するルートリフレクタの 1 つとして、ローカルルータを設定します。クラスタを識別するクラスタ ID を指定します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動ソフトクリアまたはリフレッシュが開始されます。
ステップ 4	address-family {ipv4 ipv6} {unicast multicast} 例： switch(config-router)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-af)#	指定のアドレスファミリに対応するグローバル アドレス ファミリ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	(任意) client-to-client reflection 例： switch(config-router-af)# client-to-client reflection	クライアント間のルートリフレクションを設定します。この機能は、デフォルトでイネーブルになっています。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動ソフトクリアまたはリフレッシュが開始されます。
ステップ 6	exit 例： switch(config-router-af)# exit switch(config-router)#	ルータアドレスコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 7	neighbor ip-address remote-as as-number 例： switch(config-router)# neighbor 192.0.2.10 remote-as 65535 switch(config-router-neighbor)#	リモート BGP ピアの IP アドレスおよび AS 番号を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	address-family {ipv4 ipv6} {unicast multicast} 例： switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-neighbor-af)#	ユニキャスト IPv4 アドレスファミリに対応するネイバーアドレスファミリコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 9	route-reflector-client 例： switch(config-router-neighbor-af)# route-reflector-client	BGP ルートリフレクタとしてデバイスを設定し、そのクライアントとしてネイバーを設定します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動通知およびセッションリセットが開始されます。
ステップ 10	(任意) show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} neighbors 例： switch(config-router-neighbor-af)# show bgp ipv4 unicast neighbors	BGP ピアを表示します。
ステップ 11	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config-router-neighbor-af)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

例

次に、ルートリフレクタとしてルータを設定し、クライアントとしてネイバーを1つ追加する例を示します。

```
switch(config)# router bgp 65536
switch(config-router)# neighbor 192.0.2.10 remote-as 65536
switch(config-router-neighbor)# address-family ip unicast
switch(config-router-neighbor-af)# route-reflector-client
switch(config-router-neighbor-af)# copy running-config startup-config
```

アウトバウンドルートマップを使用した、反映されたルートのネクストホップの設定

アウトバウンドルートマップを使用して、BGP ルートリフレクタの反映されたルートのネクストホップを変更できます。ネクストホップアドレスとしてピアのローカルアドレスを指定するため、アウトバウンドルートマップを設定できます。



(注) この項で説明している **next-hop-self** コマンドは、ルートリフレクタによってクライアントに反映されるルートに対してこの機能を有効にしません。この機能は、アウトバウンドルートマップを使用した場合にだけ有効にできます。

始める前に

BGP を有効にする必要があります（「[BGP の有効化](#)」の項を参照）。

正しいVDCを使用していることを確認します（または **switchto vdc** コマンドを使用します）。

set next-hop を入力する必要があります コマンドを入力して、アドレスファミリー固有のネクストホップアドレスを設定する必要があります。たとえば、IPv6アドレスファミリーの場合は、**set ipv6 next-hop peer-address** コマンドを入力する必要があります。

- ルートマップを使用して IPv4 ネクストホップを設定する場合：**set ip next-hop peer-address** がルートマップと一致する場合、ネクストホップはピアのローカルアドレスに設定されます。ネクストホップがルートマップで設定されていない場合、ネクストホップはパスに保存されているネクストホップに設定されます。
- ルートマップを使用して IPv6 ネクストホップを設定する場合：**set ipv6 next-hop peer-address** がルートマップと一致する場合、ネクストホップは次のように設定されます。
 - IPv6 ピアでは、ネクストホップはピアのローカル IPv6 アドレスに設定されます。
 - IPv4 ピアの場合、**update-source** が設定されている場合、ネクストホップは、該当する場合、発信元インターフェイスの IPv6 アドレスに設定されます。IPv6 アドレスが設定されていない場合、ネクストホップは設定されません。
 - IPv4 ピアの場合、**update-source** が設定されていない場合、ネクストホップは、該当する場合、送信先インターフェイスの IPv6 アドレスに設定されます。IPv6 アドレスが設定されていない場合、ネクストホップは設定されません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router bgp as-number 例： <pre>switch(config)# router bgp 200 switch(config-router)#</pre>	BGP モードを開始し、ローカル BGP スピーカに自律システム番号を割り当てます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	neighbor ip-address remote-as as-number 例： switch(config-router)# neighbor 192.0.2.12 remote-as 200 switch(config-router-neighbor)#	リモート BGP ピアの IP アドレスおよび AS 番号を設定します。
ステップ 4	(任意) update-source interface number 例： switch(config-router-neighbor)# update-source loopback 300	BGP セッションの送信元を指定し、更新します。
ステップ 5	address-family {ipv4 ipv6} {unicast multicast} 例： switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-neighbor-af)#	指定のアドレスファミリーに対応するグローバルアドレスファミリーコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	route-reflector-client 例： switch(config-router-neighbor-af)# route-reflector-client	BGP ルートリフレクタとしてデバイスを設定し、そのクライアントとしてネイバーを設定します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動通知およびセッションリセットが開始されます。
ステップ 7	route-map map-name out 例： switch(config-router-neighbor-af)# route-map setrrnh out	発信ルートに設定された BGP ポリシーを適用します。
ステップ 8	(任意) show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] route-map map-name [vrf vrf-name] 例： switch(config-router-neighbor-af)# show bgp ipv4 unicast route-map setrrnh	ルートマップと一致する BGP ルートを表示します。
ステップ 9	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config-router-neighbor-af)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

例

アウトバウンドルート マップを使用して、BGP ルート リフレクタの反映されたルートのネクスト ホップを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface loopback 300
switch(config-if)# ip address 192.0.2.11/32
switch(config-if)# ipv6 address 2001::a0c:1a65/64
switch(config-if)# ip router ospf 1 area 0.0.0.0
switch(config-if)# exit
switch(config)# route-map setrrnh permit 10
switch(config-route-map)# set ip next-hop peer-address
switch(config-route-map)# exit
switch(config)# route-map setrrnhv6 permit 10
switch(config-route-map)# set ipv6 next-hop peer-address
switch(config-route-map)# exit
switch(config)# router bgp 200
switch(config-router)# neighbor 192.0.2.12 remote-as 200
switch(config-router-neighbor)# update-source loopback 300
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-neighbor-af)# route-reflector-client
switch(config-router-neighbor-af)# route-map setrrnh out
switch(config-router-neighbor-af)# exit
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv6 unicast
switch(config-router-neighbor-af)# route-reflector-client
switch(config-router-neighbor-af)# route-map setrrnhv6 out
```

ルート ダンプニングの設定

iBGP ネットワーク上でのルート フラップの伝播を最小限に抑えるために、ルート ダンプニングを設定できます。

ルート ダンプニングを設定するには、アドレス ファミリまたは VRF アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>dampening [<i>half-life reuse-limit suppress-limit max-suppress-time</i> route-map <i>map-name</i>}]</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-af)# dampening route-map bgpDamp</pre>	<p>機能ネゴシエーションをディセーブルにします。パラメータ値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>half-life</i> : 指定できる範囲は 1 ~ 45 です。 • <i>reuse-limit</i> 指定できる範囲は 1 ~ 20000 です。 • <i>suppress-limit</i> : 指定できる範囲は 1 ~ 20000 です。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • <i>max-suppress-time</i> : 指定できる範囲は 1 ~ 20000 です。

ロードシェアリングおよび ECMP の設定

等コスト マルチパス ロード バランシング用に BGP がルート テーブルに追加するパスの最大数を設定できます (EXMP)。

パスの最大数を設定するには、ルータ アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	maximum-paths [ibgp] maxpaths 例 : <pre>switch(config-router-af)# maximum-paths 8</pre>	ロードシェアリング用の等コストパスの最大数を設定します。デフォルトは1です。

最大プレフィックス数の設定

BGP が BGP ピアから受け取ることのできるプレフィックスの最大数を設定できます。任意で、プレフィックス数がこの値を超えた場合に、BGP に警告メッセージを生成させる、またはピアとの BGP セッションを切断させることを設定できます。

BPG ピアに認めるプレフィックスの最大数を設定するには、ネイバー アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	maximum-prefix maximum [threshold] [restart time warning-only] 例 : <pre>switch(config-router-neighbor-af)# maximum-prefix 12</pre>	ピアからのプレフィックスの最大数を設定します。パラメータの範囲は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>maximum</i> : 指定できる範囲は 1 ~ 300000 です。 • <i>threshold</i> : 指定できる範囲は 1 ~ 100 % です。デフォルトは 75 % です。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • <i>time</i> : 指定できる範囲は 1 ~ 65535 分です。 <p>このコマンドによって、プレフィックス限度を超えた場合に、BGP ネイバーセッションの自動通知およびセッションリセットが開始されます。</p>

DSCP の設定

ネイバーの differentiated services code point (DSCP) を設定します。IPv4 または IPv6 のローカル発信パケットの DSCP 値を指定できます。

DSCP 値を設定するには、ネイバー コンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>dscp dscp_value</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# dscp 63</pre> <p>次に、対応する show コマンドの例を示します。</p> <pre>show ipv6 bgp neighbors BGP neighbor is 10.1.1.1, remote AS 0, unknown link, Peer index 4 BGP version 4, remote router ID 0.0.0.0 BGP state = Idle, down for 00:13:34, retry in 0.000000 DSCP (DiffServ CodePoint): 0 Last read never, hold time = 180, keepalive interval is 60 seconds</pre>	<p>ネイバーの Differentiated Services Code Point (DSCP) の値を設定します。DSCP 値には、0 ~ 63 の数字、または、ef、af11、af12、af13、af21、af22、af23、af31、af32、af33、af41、af42、af43、cs1、cs2、cs3、cs4、cs5、cs6、または cs7 のいずれかのキーワードを指定できます。</p> <p>デフォルト値は cs6 です。</p>

ダイナミック機能の設定

BGP ピアのダイナミック機能を設定できます。

ダイナミック機能を設定するには、ネイバー コンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	dynamic-capability 例 : <pre>switch(config-router-neighbor) # dynamic-capability</pre>	ダイナミック機能をイネーブルにします。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動通知およびセッションリセットが開始されます。

集約アドレスの設定

BGP ルート テーブルの集約アドレス エントリを設定できます。

集約アドレスを設定するには、ルータ アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	aggregate-address ip-prefix/length [as-set] [summary-only] [advertise-map map-name] [attribute-map map-name] [suppress-map map-name] 例 : <pre>switch(config-router-af) # aggregate-address 192.0.2.0/8 as-set</pre>	集約アドレスを作成します。このルートに関してアドバタイズされるパスは、集約されているすべてのパスに含まれるすべての要素からなる、自律システムセットです。 <ul style="list-style-type: none"> • as-set キーワードは、関係するパスから自律システムセットパス情報およびコミュニティ情報を生成します。 • summary-only キーワードは、アップデートから具体的なルートをすべてフィルタリングします。 • advertise-map キーワードおよび引数では、選択されたルートから属性情報を選択するためのルートマップを指定します。 • attribute-map キーワードおよび引数では、集約から属性情報を選択するためのルートマップを指定します。 • suppress-map キーワードおよび引数によって、固有性の強いルートを条件付きでフィルタリングします。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>BGP ルート集約の実行中に suppress-map オプションを指定すると、BGP ルート更新のコミュニティ属性を設定できます。このオプションを使用すると、より具体的なルートにコミュニティ属性を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • suppress-map キーワードおよび引数によって、固有性の強いルートを条件付きでフィルタリングします。 <p>BGP ルート集約の実行中に suppress-map オプションを指定すると、特定のより具体的なルートがピアにアドバタイズされないように抑制したり、suppress-map route-map 設定に応じて、いくつかのコミュニティ属性が設定されたより具体的なルートをアドバタイズしたりすることができます。match 句だけで設定されたルートマップは、一致基準を満たすより具体的なルートを抑制します。ただし、ルートマップが match および set 句で設定されている場合、一致基準を満たすルートは、ルートマップによって変更された適切な属性でアドバタイズされます。2 番目のオプションでは、より具体的なルートにコミュニティ属性を設定できます。</p>

BGP ルートの抑制

新しく学習された BGP ルートが転送情報ベース (FIB) により確認され、ハードウェアでプログラミングされた後にのみ、これらのルートをアドバタイズするように Cisco NX-OS を設定できます。ルートがプログラミングされた後は、これらのルートに対する以降の変更にはこのハードウェアプログラミングのチェックは必要ありません。

BGP ルートを抑制するには、ルータ コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	suppress-fib-pending 例 : <pre>switch(config-router)# suppress-fib-pending</pre>	新しく学習された BGP ルート (IPv4 または IPv6) がハードウェアでプログラミングされるまで、ダウンストリームの BGP ネイバーにアドバタイズされることを抑制します。

BGP 条件付きアドバタイズメントの設定

BGP がプロパゲートするルートを制限するように BGP 条件付きアドバタイズメントを設定できます。次の 2 つのルート マップを定義します。

- アドバタイズ マップ : BGP が条件付きアドバタイズメントを考慮する前にルートが一致する必要のある条件を指定します。このルートマップには、適切な **match** 文を含めることができます。
- 存在マップまたは非存在マップ : BGP がアドバタイズ マップに一致するルートをプロパゲートする前に BGP テーブルに存在する必要のあるプレフィックスを定義します。非存在マップは、BGP がアドバタイズ マップに一致するルートをプロパゲートする前に BGP テーブルに存在してはならないプレフィックスを定義します。BGP は、これらのルートマップでプレフィックス リストの **match** 文内にある **permit** 文のみを処理します。

ルートが条件を渡さない場合、そのルートが BGP テーブルにあれば BGP によってルートが取り消されます。

始める前に

BGP を有効にする必要があります (「[BGP の有効化](#)」のセクションを参照)。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	router bgp as-number 例 : <pre>switch(config)# router bgp 65535 switch(config-router)#</pre>	BGP モードを開始し、ローカル BGP スピーカーに自律システム番号を割り当てます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<p>neighbor ip-address remote-as as-number</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router)# neighbor 192.168.1.2 remote-as 65534 switch(config-router-neighbor)#</pre>	<p>BGPルーティング用のネイバー設定モードを開始し、ネイバー IP アドレスを設定します。</p>
ステップ 4	<p>address-family {ipv4 ipv6} {unicast multicast}</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 multicast switch(config-router-neighbor-af)#</pre>	<p>アドレス ファミリ設定モードを開始します。</p>
ステップ 5	<p>advertise-map adv-map {exist-map exist-rmap non-exist-map nonexist-rmap}</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af)# advertise-map advertise exist-map exist</pre>	<p>2つの設定済みルートマップに従い、ルートを条件付きでアドバタイズするように BGP を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • adv-map : BGP がルートを次のルートマップに渡す前に、そのルートが渡す必要のある match 文を含むルートマップを指定します。 <i>adv-map</i> には最大 63 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。 • exist-rmap : プレフィックスリストの match ステートメントを使用してルートマップを指定します。BGP テーブル内のプレフィックスは、BGP がルートをアドバタイズする前に、プレフィックスリスト内のプレフィックスと一致する必要があります。 <i>exist-rmap</i> には最大 63 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。 • nonexist-rmap : プレフィックスリストの match ステートメントを使用してルートマップを指定します。BGP テーブル内のプレフィックスは、BGP がルートをアドバタイズする前に、プレフィックスリスト内のプレフィックスと一致してはいけません。 <i>nonexist-rmap</i> には最大 63 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	(任意) show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} neighbors 例 : <pre>switch(config-router-neighbor-af)# show ip bgp neighbor</pre>	BGP に関する情報、および設定した条件付きアドバタイズメントのルートマップに関する情報を表示します。
ステップ 7	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config-router-neighbor-af)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

例

次に、BGP 条件付きアドバタイズメントを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 65536
switch(config-router)# neighbor 192.0.2.2 remote-as 65537
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-neighbor-af)# advertise-map advertise exist-map exist
switch(config-router-neighbor-af)# exit
switch(config-router-neighbor)# exit
switch(config-router)# exit
switch(config)# route-map advertise
switch(config-route-map)# match as-path pathList
switch(config-route-map)# exit
switch(config)# route-map exit
switch(config-route-map)# match ip address prefix-list plist
switch(config-route-map)# exit
switch(config)# ip prefix-list plist permit 209.165.201.0/27
```

ルートの再配布の設定

別のルーティング プロトコルからのルーティング情報を受け入れて、BGP ネットワークを通じてその情報を再配布するように、BGP を設定できます。任意で、再配布ルートのためのデフォルト ルートを割り当てることができます。

始める前に

BGP を有効にする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router bgp as-number 例： switch(config)# router bgp 65535 switch(config-router)#	BGP モードを開始し、ローカル BGP スピーカに自律システム番号を割り当てます。
ステップ 3	address-family {ipv4 ipv6} {unicast multicast} 例： switch(config-router)# address-family vpv4 unicast switch(config-router-af)#	アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	address-family {ipv4 ipv6} {unicast multicast} 例： switch(config-router)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-af)#	アドレスファミリ コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 5	redistribute {direct {eigrp isis ospf ospfv3 rip} instance-tag static} route-map map-name 例： switch(config-router-af)# redistribute eigrp 201 route-map Eigrpmap	他のプロトコルからのルートを BGP に再配布します。
ステップ 6	redistribute {direct {eigrp isis ospf ospfv3 rip} instance-tag static} route-map map-name 例： switch(config-router-af)# redistribute eigrp 201 route-map Eigrpmap	他のプロトコルからのルートを BGP に再配布します。
ステップ 7	(任意) default-metric value 例： switch(config-router-af)# default-metric 33	BGP へのデフォルト ルートを生成します。
ステップ 8	(任意) copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

	コマンドまたはアクション	目的
	例 : <pre>switch(config-router-af)# copy running-config startup-config</pre>	

例

次に、EIGRP を BGP に再配布する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 65536
switch(config-router)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-af)# redistribute eigrp 201 route-map Eigrpmap
switch(config-router-af)# copy running-config startup-config
```

デフォルトルートのアドバタイズ

デフォルトのルート（ネットワーク 0.0.0.0）をアドバタイズするように BGP を設定できます。

始める前に

BGP をイネーブルにする必要があります（「[BGP のイネーブル化](#)」の項を参照）。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	route-map allow permit 例 : <pre>switch(config)# route-map allow permit switch(config-route-map)#</pre>	ルータのマップ コンフィギュレーションモードを開始し、ルートを再配布する条件を定義します。。
ステップ 3	exit 例 : <pre>switch(config-route-map)# exit switch(config)#</pre>	ルータのマップ設定モードを終了します。
ステップ 4	ip route ip-address network-mask null null-interface-number 例 : <pre>switch(config)# ip route 192.0.2.1 255.255.255.0 null 0</pre>	IP アドレスを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	router bgp <i>as-number</i> 例： <pre>switch(config)# router bgp 65535 switch(config-router)#</pre>	BGP モードを開始し、AS 番号をローカルの BGP スピーカに割り当てます。
ステップ 6	address-family {<i>ipv4</i> <i>ipv6</i>} unicast 例： <pre>switch(config-router)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-af)#</pre>	アドレスファミリー設定モードに入ります。
ステップ 7	default-information originate 例： <pre>switch(config-router-af)# default-information originate</pre>	デフォルトのルートアドバタイズします。
ステップ 8	redistribute static route-map allow 例： <pre>switch(config-router-af)# redistribute static route-map allow</pre>	デフォルトのルートアドバタイズします。
ステップ 9	(任意) copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config-router-af)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

BGP 属性フィルタリングの設定とエラー処理

Cisco NX-OS リリース 9.3(3) 以降では、BGP 属性フィルタリングとエラー処理を設定して、セキュリティレベルを向上させることができます。次の機能を利用でき、次の順序で実装されます。

- **パス属性 treat-as-withdraw:** アップデートに指定した属性タイプが含まれている場合に、指定したネイバーから受け取った BGP アップデートを **treat-as-withdraw** とすることを許可します。アップデートに含まれるプレフィックスは、ルーティングテーブルから削除されます。
- **パス属性 discard:** BGP アップデートの特定のパス属性を特定のネイバーから削除できます。
- **拡張属性エラー処理:** 形式が誤っているアップデートに起因するピアセッションのフラッピングを防止します。

属性タイプ 1、2、3、4、8、14、15、16 は、パス属性 `treat-as-withdraw` とパス属性 `discard` に対して設定できません。属性タイプ 9 (Originator)、タイプ 10 (Cluster-id) は、eBGP ネイバーでのみ設定できます。

BGP 更新メッセージからのパス属性の取り消しとしての処理

特定のパス属性を含む BGP 更新を「扱うように」処理するには、ルータネイバーコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>[no] path-attribute treat-as-withdraw [value range start end] in</p> <p>例 :</p> <pre>switch#(config-router)# neighbor 10.20.30.40 switch(config-router-neighbor)# path-attribute treat-as-withdraw 100 in</pre> <p>例 :</p> <pre>switch#(config-router)# neighbor 10.20.30.40 switch(config-router-neighbor)# path-attribute treat-as-withdraw range 21 255 in</pre>	<p>指定されたパス属性またはパス属性の範囲を含む着信 BGP 更新メッセージをすべて取り消すものとして扱い、ルーティングテーブルが最新であることを確認するために着信ルートリフレッシュをトリガーします。<code>treat-as-withdraw</code> である BGP 更新のプレフィックスは、BGP ルーティングテーブルから削除されます。</p> <p>このコマンドは、BGP テンプレートピアおよび BGP テンプレートピアセッションでもサポートされます。</p>

BGP 更新メッセージからのパス属性の破棄

特定のパス属性を含む BGP アップデートを廃棄するには、ルータネイバーコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>[no] path-attribute discard [value range start end] in</p> <p>例 :</p> <pre>switch#(config-router)# neighbor 10.20.30.40 switch(config-router-neighbor)# path-attribute discard 100 in</pre> <p>例 :</p> <pre>switch#(config-router)# neighbor 10.20.30.40 switch(config-router-neighbor)#</pre>	<p>指定されたネイバーの BGP アップデートメッセージ内の指定されたパス属性をドロップし、ルーティングテーブルが最新であることを確認するために着信ルートリフレッシュをトリガーします。特定の属性または不要な属性の範囲全体を設定できます。</p> <p>このコマンドは、BGP テンプレートピアおよび BGP テンプレートピアセッションでもサポートされます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>path-attribute discard range 100 255 in</code>	(注) <code>discard</code> と <code>treat-as-withdraw</code> の両方に同じパス属性が設定されている場合、 <code>treat-as-withdraw</code> の優先順位が高くなります。

拡張属性エラー処理のイネーブル化またはディセーブル化

BGP 拡張属性エラー処理はデフォルトで有効になっていますが、無効にすることもできます。この機能は、RFC 7606 に準拠しており、不正な更新によるピアセッションのフラッピングを防止します。デフォルトの動作は、eBGP ピアと iBGP ピアの両方に適用されます。

拡張エラー処理を無効または再度有効にするには、ルータ設定モードで次のコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	[no] enhanced-error 例： <code>switch(config)# router bgp 1000</code> <code>switch(config-router)# enhanced-error</code>	BGP 拡張属性エラー処理をイネーブルまたはディセーブルにします。

取り消されたパス属性または破棄されたパス属性の表示

廃棄または不明なパス属性に関する情報を表示するには、次のいずれかのタスクを実行します。

コマンド	目的
<code>show bgp {ipv4 ipv6} unicast path-attribute discard</code>	属性が破棄されたすべてのプレフィックスを表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} unicast path-attribute unknown</code>	不明な属性を持つすべてのプレフィックスを表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} unicast ip-address</code>	プレフィックスに関連付けられている不明な属性および破棄された属性を表示します。

次の例は、属性が廃棄されたプレフィックスを示しています。

```
switch# show bgp ipv4 unicast path-attribute discard
Network          Next Hop
1.1.1.1/32       20.1.1.1
1.1.1.2/32       20.1.1.1
```



```
1.1.1.3/32      20.1.1.1
```

次の例は、不明な属性を持つプレフィックスを示しています。

```
switch# show bgp ipv4 unicast path-attribute unknown
Network      Next Hop
2.2.2.2/32   20.1.1.1
2.2.2.3/32   20.1.1.1
```

次の例は、プレフィックスに関連付けられている不明な属性および破棄された属性を表示します。

```
switch# show bgp ipv4 unicast 2.2.2.2
BGP routing table entry for 2.2.2.2/32, version 6241
Paths: (1 available, best #1, table default)
  Not advertised to any peer
  Refresh Epoch 1
  1000
  20.1.1.1 from 20.1.1.1 (20.1.1.1)
  Origin IGP, localpref 100, valid, external, best
  unknown transitive attribute: flag 0xE0 type 0x62 length 0x64
  value 0000 0000 0100 0000 0200 0000 0300 0000
        0400 0000 0500 0000 0600 0000 0700 0000
        0800 0000 0900 0000 0A00 0000 0B00 0000
        0C00 0000 0D00 0000 0E00 0000 0F00 0000
        1000 0000 1100 0000 1200 0000 1300 0000
        1400 0000 1500 0000 1600 0000 1700 0000
        1800 0000
  rx pathid: 0, tx pathid: 0x0
  Updated on Jul 20 2019 07:50:43 PST
```

BGP の調整

一連のオプションパラメータを使用することによって、BGP 特性を調整できます。

BGP を調整するには、ルータ コンフィギュレーションモードで次のオプションコマンドを使用します。

コマンド	目的
<p>bestpath [always-compare-med as-path multipath-relax compare-routerid cost-community ignore igp-metric ignore med {confed missing-as-worst non-deterministic}]</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router)# bestpath always-compare-med</pre>	<p>ベストパス アルゴリズムを変更します。オプションパラメータは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • always-compare-med : 異なる自律システム (AS) からのパスの MED を比較します。 • as-path multipath-relax : 異なる (ただし長さが等しい) AS パスを持つプロバイダー間でのロードシェアリングを許可します。このオプションを指定しないと、AS パスはロードシェアリングの場合に同一である必要があります。 • compare-routerid : 同一の eBGP パスのルータ ID を比較します。 • cost-community ignore : BGP ベストパス計算のコストコミュニティを無視します。 • igp-metric ignore : ベストパス選択時に内部ゲートウェイプロトコル (IGP) メトリックを無視します。このオプションは、Cisco NX-OS リリース 9.2(2) 以降で使用可能です。 • med confed : コンフェデレーション内からのパス間のみで MED を比較するように最適なパスを強制します。 • med missing-as-worst : 消失 MED を最高の MED と見なします。 • med non-deterministic : 同じ自律システムからのパスの中から最適な MED パスを決して選択しません。
<p>enforce-first-as</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router)# enforce-first-as</pre>	<p>ネイバー自律システムを eBGP の AS_path 属性で指定する最初の AS 番号にします。</p>

コマンド	目的
<p>log-neighbor-changes</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router)# log-neighbor-changes</pre>	<p>ネイバーでステータスが変化したときに、システムメッセージを生成します。</p> <p>(注) 特定のネイバーのネイバーステータス変化に関するメッセージを抑制するには、ルータアドレスファミリーコンフィギュレーションモードで log-neighbor-changes disable コマンドを使用できます。</p>
<p>router-id id</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router)# router-id 10.165.20.1</pre>	<p>この BGP スピーカのルータ ID を手動で設定します。</p>
<p>timers [bestpath-delay delay bgpkeepalive holdtime prefix-peer-timeout timeout]</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router)# timers bgp 90 270</pre>	<p>BGP タイマー値を設定します。オプションパラメータは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>delay</i> : 再起動後の初期最適パスタイムアウト値。有効な範囲は 0 ~ 3600 秒です。デフォルト値は 300 です。 • <i>keepalive</i> : BGP セッション キープアライブタイム。有効な範囲は 0 ~ 3600 秒です。デフォルト値は 60 です。 • <i>holdtime</i> : BGP セッションの保持時間。指定できる範囲は 0 ~ 3600 秒です。デフォルト値は 180 です。 • <i>timeout</i> : プレフィックスピアタイムアウト値。有効な範囲は 0 ~ 1200 秒です。デフォルト値は 30 です。 <p>このコマンドの設定後、BGP セッションを手動でリセットする必要があります。</p>

BGP を調整するには、ルータ アドレス ファミリ設定モードで次のオプションコマンドを使用します。

コマンド	目的
<p>distance <i>ebgp-distance ibgp-distance local-distance</i></p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-af)# distance 20 100 200</pre>	<p>BGP のアドミニストレーティブディスタンスを設定します。範囲は 1 ～ 255 です。デフォルトの設定は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>ebgp-distance</i> —20 • <i>ibgp-distance</i> —200 • <i>local-distance</i> —220 ローカル ディスタンスは、集約廃棄ルートが RIB に組み込まれている場合に、集約廃棄ルートに使用するアドミニストレーティブディスタンスです。 <p>外部アドミニストレーティブディスタンスの値を入力したら、要件に応じて内部ルートのアドミニストレーティブディスタンスの値またはローカルルートのアドミニストレーティブディスタンスの値を入力する必要があります。内部/ローカルルートもルート管理で考慮されます。</p>
<p>log-neighbor-changes [disable]</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-af)# log-neighbor-changes disable</pre>	<p>この特定のネイバーの状態が変化すると、システム メッセージを生成します。</p> <p>disable オプションを使用すると、この特定のネイバーのネイバー ステータス変化に関するメッセージが抑制されます。</p>

BGP を調整するには、ネイバー コンフィギュレーション モードで次のオプション コマンドを使用します。

コマンド	目的
<p>description <i>string</i></p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# description main site</pre>	<p>この BGP ピアを説明するストリングを設定します。ストリングには最大 80 の英数字を使用できます。</p>
<p>low-memory exempt</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# low-memory exempt</pre>	<p>メモリ不足状態によるシャットダウンからこの BGP ネイバーを除外します。</p>

コマンド	目的
<p>transport connection-mode passive</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# transport connection-mode passive</pre>	<p>受動接続の確立だけが可能です。この BGP スピーカは BGP ピアへの TCP 接続を開始しません。このコマンドの設定後、BGP セッションを手動でリセットする必要があります。</p>
<p>[no default] remove-private-as [all replace-as]</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# remove-private-as</pre>	<p>eBGP ピアへの発信ルートアップデートからプライベート AS 番号を削除します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動ソフトクリアまたはリフレッシュが開始されます。</p> <p>オプションパラメータは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • no : コマンドをディセーブルにします。 • default : デフォルトモードにコマンドを移動します。 • all : AS パスからすべてのプライベート AS 番号を削除します。 • replace-as : すべてのプライベート AS 番号を replace-as AS-path 値に置き換えます。 <p>このコマンドの詳細については、拡張 BGP に関する注意事項と制限事項 (15 ページ) を参照してください。</p>
<p>update-source interface-type number</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor)# update-source ethernet 2/1</pre>	<p>ピアとの BGP セッション用に設定されたインターフェイスの送信元 IP アドレスを使用するように、BGP スピーカを設定します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動通知およびセッションリセットが開始されます。単一ホップ iBGP ピアでは、update-source が設定されている場合に、高速外部フォールオーバーをサポートします。</p>

BGP を調整するには、ネイバーアドレスファミリ コンフィギュレーションモードで次のオプション コマンドを使用します。

コマンド	目的
<p>allowas in</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af)# allowas in</pre>	<p>BRIP にインストールする AS パスにルート自体の AS を持つことを可能にします。</p>

コマンド	目的
<p>default-originate [route-map <i>map-name</i>]</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af) # default-originate</pre>	<p>BGP ピアへのデフォルト ルートを作成します。</p>
<p>disable-peer-as-check</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af) # disable-peer-as-check</pre>	<p>デバイスが同じ AS パスで一方のノードからもう一方のノードに学習されたルートをアドバタイズすると同時に、ピア AS 番号のチェックをディセーブルにします。</p>
<p>filter-list <i>list-name</i> {in out}</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af) # filter-list BGPFilter in</pre>	<p>着信または発信ルートアップデートに関して、この BGP ピアに AS_path フィルタ リストを適用します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動ソフトクリアまたはリフレッシュが開始されます。</p>
<p>prefix-list <i>list-name</i> {in out}</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af) # prefix-list PrefixFilter in</pre>	<p>着信または発信ルートアップデートに関して、この BGP ピアにプレフィックスリストを適用します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動ソフトクリアまたはリフレッシュが開始されます。</p>
<p>send-community</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af) # send-community</pre>	<p>この BGP ピアにコミュニティ属性を送信します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動ソフトクリアまたはリフレッシュが開始されます。</p>
<p>send-community extended</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af) # send-community extended</pre>	<p>この BGP ピアに拡張コミュニティ属性を送信します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動ソフトクリアまたはリフレッシュが開始されます。</p>
<p>suppress-inactive</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af) # suppress-inactive</pre>	<p>ベスト (アクティブ) ルートだけを BGP ピアにアドバタイズします。このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動ソフトクリアまたはリフレッシュが開始されます。</p>
<p>[no default] as-override</p> <p>例:</p> <pre>switch(config-router-neighbor-af) # as-override</pre>	<p>no- (オプション) コマンドを無効にします。</p> <p>default : (オプション) デフォルト モードにコマンドを移動します。</p> <p>as-override : eBGP ピアに更新を送信する際に、パス属性内のピアの AS 番号をすべてローカル AS 番号に置き換えます。</p>

ポリシーベースのアドミニストレーティブディスタンスの設定

設定されたルートマップで説明されているポリシーに一致する外部 BGP (eBGP) と内部 BGP (iBGP) の距離を設定できます。ルートマップで設定された距離は、一致するルートとともにユニキャスト RIB にダウンロードされます。BGP は最適パスを使用して、ユニキャスト RIB テーブルのネクストホップをダウンロードするときのアドミニストレーティブディスタンスを決定します。ポリシーに `match` 句または `deny` 句がない場合、BGP は `distance` コマンドで設定された距離またはルートのデフォルトの距離を使用します。

ポリシーベースのアドミニストレーティブディスタンス機能は、2つの異なるルーティングプロトコルから同じ宛先に2つ以上のルートが存在する場合に役立ちます。

始める前に

BGP を有効にする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# ip prefix-list name seq number permit prefix-length	permit キーワードを使用して、IP パケットまたはルートを照合するためのプレフィクスリストを作成します。
ステップ 3	switch(config)# route-map map-tag permit sequence-number	permit キーワードを使用してルートマップを作成し、ルートマップコンフィギュレーションモードを開始します。ルート的一致基準がポリシー内で満たされると、パケットはポリシーでルーティングされます。
ステップ 4	switch(config-route-map)# match ip address prefix-list prefix-list-name	プレフィクスリストに基づいて IPv4 ネットワークルートを照合します。プレフィクスリスト名には最大 63 文字の英数字を使用できます。
ステップ 5	switch(config-route-map)# set distance value1 value2 value3	ローカル自律システムから発信される内部 BGP (iBGP) または外部 BGP (eBGP) ルートおよび BGP ルートのアドミニストレーティブディスタンスを指定します。範囲は 1 ~ 255 です。

	コマンドまたはアクション	目的
		外部アドミニストレーティブディスタンスの値を入力したら、要件に応じて内部ルートのアドミニストレーティブディスタンスの値またはローカルルートのアドミニストレーティブディスタンスの値を入力する必要があります。内部/ローカルルートもルート管理で考慮されます。
ステップ 6	switch(config-route-map)# exit	ルート マップ設定モードを終了します。
ステップ 7	switch(config)# router bgp as-number	BGP モードを開始し、AS 番号をローカルの BGP スピーカに割り当てます。
ステップ 8	switch(config-router)# address-family {ipv4 ipv6 vpnv4 vpnv6} unicast	アドレスファミリー設定モードを開始します。
ステップ 9	switch(config-router-af)# table-map map-name	BGP ルートを RIB テーブルに転送する前にそのルートのルートマップの選択的アドミニストレーティブディスタンスを設定します。テーブルマップ名には最大 63 文字の英数字を使用できます。 (注) VRF アドレスファミリー設定モードで table-map コマンドを設定することもできます。
ステップ 10	(任意) switch(config-router-af)# show forwarding distribution	フォワーディング情報の配布を表示します。
ステップ 11	(任意) switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

マルチプロトコル BGP の設定

複数のアドレスファミリー (IPv4 および IPv6 のユニキャストおよびマルチキャストルートを含む) をサポートするように MP-BGP を設定できます。

始める前に

BGP をイネーブルにする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router bgp as-number 例： switch(config)# router bgp 65535 switch(config-router)#	BGP モードを開始し、ローカル BGP スピーカに自律システム番号を割り当てます。
ステップ 3	neighbor ip-address remote-as as-number 例： switch(config-router)# neighbor 192.168.1.2 remote-as 65534 switch(config-router-neighbor)#	BGP ルーティング用のネイバー設定モードを開始し、ネイバー IP アドレスを設定します。
ステップ 4	address-family {ipv4 ipv6} {unicast multicast} 例： switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 multicast switch(config-router-neighbor-af)#	アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config-router-neighbor-af)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

例

次に、ネイバーのマルチキャスト RPF に対して IPv4 および IPv6 ルートのアドバタイズおよび受信をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# ipv6 address 2001:0DB8::1
switch(config-if)# router bgp 65536
switch(config-router)# neighbor 192.168.1.2 remote-as 35537
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv4 multicast
switch(config-router-neighbor-af)# exit
switch(config-router-neighbor)# address-family ipv6 multicast
switch(config-router-neighbor-af)# copy running-config startup-config
```

BMP の設定

Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I5(2) 以降では、デバイスに BMP を設定できます。

始める前に

BGP をイネーブルにする必要があります（「[BGP のイネーブル化](#)」の項を参照）。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router bgp as-number 例： switch(config)# router bgp 200 switch(config-router)#	BGP モードを開始し、ローカル BGP スピーカに自律システム番号を割り当てます。
ステップ 3	bmp server server-number 例： switch(config-router)# bmp server 1	BGP が情報を送信する BMP サーバを設定します。サーバ番号がキーとして使用されます。 (注) 最大 2 つの BMP サーバを設定できます。
ステップ 4	address ip-address port-number port-number 例： switch(config-router)# address 10.1.1.1 port-number 2000	ホストの IPv4 または IPv6 アドレスと、BMP スピーカーが BMP サーバに接続するポート番号を設定します。
ステップ 5	description string 例： switch(config-router)# description BMPserver1	BMP サーバの説明を設定します。最大 256 文字の英数字を入力できます。
ステップ 6	initial-refresh { skip delay time } 例： switch(config-router)# initial-refresh delay 100	BGP がコンバージされ、後で BMP サーバ接続が確立されたときにルートリフレッシュを送信するオプションを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>skip オプションは、BMP サーバ接続が後でアップした場合にルートリフレッシュを送信しないことを指定します。</p> <p>delay オプションは、ルート更新を送信するまでの時間を秒単位で指定します。有効範囲は 30 ~ 720 秒で、デフォルトは 30 秒です。</p>
ステップ 7	initial-delay time 例： <pre>switch(config-router)# initial-delay 120</pre>	BMP サーバへの接続が試行されるまでの遅延を設定します。有効範囲は 30 ~ 720 秒で、デフォルトは 45 秒です。
ステップ 8	stats-reporting-period time 例： <pre>switch(config-router)# stats-reporting-period 50</pre>	BMP サーバが BGP ネイバーから統計レポートを受信する時間間隔を設定します。有効範囲は 30 ~ 720 秒で、デフォルトはディスエーブルです。
ステップ 9	shutdown 例： <pre>switch(config-router)# shutdown</pre>	BMP サーバへの接続を無効にします。
ステップ 10	neighbor ip-address 例： <pre>switch(config-router)# neighbor 192.168.1.2 switch(config-router-neighbor)#</pre>	BGP ルーティング用のネイバー コンフィギュレーションモードを開始し、ネイバー IP アドレスを設定します。
ステップ 11	remote-as as-number 例： <pre>switch(config-router-neighbor)# remote-as 65535</pre>	リモート BGP ピアの AS 番号を設定します。
ステップ 12	bmp-activate-server server-number 例： <pre>switch(config-router-neighbor)# bmp-activate-server 1</pre>	ネイバーの情報の送信先となる BMP サーバを設定します。
ステップ 13	(任意) show bgp bmp server [server-number] [detail] 例： <pre>switch(config-router-neighbor)# show bgp bmp server</pre>	BMP サーバ情報を表示します。
ステップ 14	(任意) copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

	コマンドまたはアクション	目的
	例 : <pre>switch(config-router-neighbor) # copy running-config startup-config</pre>	

BGP ローカル ルート リーク

BGP ローカル ルート リークについて

リリース 9.3(1) 以降、NX-OS BGP は、次の間のインポートされた VPN ルートのリークをサポートします。

- VPN ルート テーブルとデフォルト VRF ルート テーブル
- VPN ルート テーブルと VRF-Lite ルート テーブル
- リーフからリーフへの接続用のボーダー リーフ (BL) スイッチ ルート テーブル

この機能により、ルート テーブル間のルートの伝播が可能になります。インポート マップまたはエクスポート マップを設定することで、VRF のルート リークを制御できます。このマップには、ローカルで発生した着信ルートを許可または禁止し、アドバタイズするかどうかを指定するオプションが含まれています。ローカルルート リークは双方向であるため、ローカルに発信されたルートは VRF から BGP VPN にリークされ、BGP VPN からインポートされたルートは VRF にリークされます。



(注) NX-OS は、中央集中型ルート リークと呼ばれる同様の機能をサポートしています。詳細については、[レイヤ 3 仮想化の設定](#)を参照してください。

BGP ローカル ルート リークの注意事項と制約事項

BGP ローカル ルート リーク機能の注意事項と制約事項は次のとおりです。

- この機能は、次のシスコ ハードウェアによりサポートされます。
 - この機能は、Cisco Nexus 9332C、9364C、9300-EX、9300-FX/FXP/FX2/FX3、および 9300-GX プラットフォーム スイッチと、9700-EX/FX ラインカードを備えた Cisco Nexus 9500 プラットフォーム スイッチに導入されました。
 - -R ライン カード搭載の Cisco Nexus 9500 プラットフォーム スイッチ
- ルート ターゲットを使用する場合、同じルート ターゲットが同じリモート パスを指す重複パスを持っている可能性があり、これがスイッチのメモリとパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。ルート ターゲットを使用する場合は注意してください。

- 同じ VRF 間で境界リーフルータ (BL) がリークするリーフツリーの場合に、ローカルルートリークを使用する場合は注意してください。このシナリオでは、ルーティングループが発生しやすくなります。インポートされたルートを他の BL から除外するには、インバウンドルートマップを使用することを推奨します。
- リモートパスが取り消された後、BGP がパスを完全にクリーンアップするまでにさらに 20 秒かかることがあります。

デフォルト VRF にリークするために VPN からインポートされたルートを設定する

VRF を設定して、BGP VPN からインポートされたルートが、デフォルトの VRF へエクスポートされることを許可することができます。この手順は、デフォルト以外の VRF に使用します。

始める前に

BGP をまだ有効にしていない場合は、ここで有効にします (**feature bgp**) 。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config terminal 例 : <pre>switch-1# config terminal Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch-1(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	vrf context vrf-name 例 : <pre>switch-1(config)# vrf context vpn1 switch-1(config-vrf)#</pre>	新しい VRF を作成し、VRF 設定モードを開始します。32 文字以内の英数字のストリング (大文字と小文字を区別) で指定します。
ステップ 3	address-family address-family sub family 例 : <pre>switch-1(config-vrf)# address-family ipv4 unicast switch-1(config-vrf-af-ipv4)#</pre>	
ステップ 4	export vrf default [prefix-limit] map route-map allow-vpn 例 : <pre>switch-1(config-vrf-af-ipv4)# export vrf default map vpnmap1 allow-vpn switch-1(config-vrf-af-ipv4)#</pre>	現在の VRF を設定して、BGP VPN からインポートされたルートが、デフォルトの VRF へエクスポートされることを許可します。

デフォルト VRF からリークされたルートを VPN にエクスポートするための設定

デフォルト VRF からリークされたルートを BGP VPN にエクスポートできるように VRF を設定できます。この手順は、デフォルト以外の VRF に使用します。

始める前に

BGP をまだ有効にしていない場合は、ここで有効にします (**feature bgp**)。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config terminal 例： switch-1# config terminal Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch-1 (config) #	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	vrf context vrf-name 例： switch-1 (config) # vrf context vpn1 switch-1 (config-vrf) #	新しい VRF を作成し、VRF 設定モードを開始します。32 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
ステップ 3	address-family address-family sub family 例： switch-1 (config-vrf) # address-family ipv4 unicast switch-1 (config-vrf-af-ipv4) #	
ステップ 4	import vrf default [prefix-limit] maproute-map advertise-vpn 例： switch-1 (config-vrf-af-ipv4) # import vrf map vpnmap1 advertise-vpn switch-1 (config-vrf-af-ipv4) #	デフォルト VRF からインポートされたルートを BGP VPN にエクスポートできるように現在の VRF を設定します。

VRF にエクスポートするために VPN からインポートしたルートの設定

VPN でインポートされたルートを別の VRF にエクスポートできるように VRF を設定できます。この手順は、デフォルト以外の VRF に使用してください。

始める前に

BGP をまだ有効にしていない場合は、ここで有効にします (**feature bgp**)。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config terminal 例： <pre>switch-1# config terminal Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch-1(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	vrf context vrf-name 例： <pre>switch-1(config)# vrf context vpn1 switch-1(config-vrf)#</pre>	新しい VRF を作成し、VRF 設定モードを開始します。32 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
ステップ 3	address-family address-family sub family 例： <pre>switch-1(config-vrf)# address-family ipv4 unicast switch-1(config-vrf-af-ipv4)#</pre>	
ステップ 4	export vrf allow-vpn 例： <pre>switch-1(config-vrf-af-ipv4)# export vrf allow-vpn nxosv2(config-vrf-af-ipv4)#</pre>	BGP VPM からインポートしたルートをデフォルト以外の VRF にエクスポートできるように VRF を設定します。

VRF からインポートして VPN にエクスポートするルートの設定

VRF は、別の VRF からインポートされたルートを BGP VPN にエクスポートできるように設定することができます。この手順は、デフォルト以外の VRF に使用してください。

始める前に

BGP をまだ有効にしていない場合は、ここで有効にします（**feature bgp**）。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config terminal 例： <pre>switch-1# config terminal Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch-1(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	vrf context <i>vrf-name</i> 例： switch-1(config)# vrf context vpn1 switch-1(config-vrf)#	新しい VRF を作成し、VRF 設定モードを開始します。32 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
ステップ 3	address-family <i>address-family sub family</i> 例： switch-1(config-vrf)# address-family ipv4 unicast switch-1(config-vrf-af-ipv4)#	
ステップ 4	import vrf advertise-vpn 例： switch-1(config-vrf-af-ipv4)# import vrf advertise-vpn nxosv2(config-vrf-af-ipv4)#	別の VRF からインポートされたルートを BGP VPN にエクスポートできるように現在の VRF を設定します。

設定例

次に、BGP ローカル ルート リーク機能の設定例を示します。

BGP VPN からデフォルト VPN への到達可能性の設定

この例では、VPN とデフォルト VRF の間にある、VRF_A と呼ばれる中間 VRF を介して、ルートの再インポートを有効にします。

```
vrf context VRF_A
  address-family ipv4 unicast
  route-target both auto evpn
  import vrf default map MAP_1 advertise-vpn
  export vrf default map MAP_1 allow-vpn
```

ルートの再インポートは、VPN から VRF_A へのルートのインポートを制御する **advertise-vpn** オプションを使用して、また、VRF_A からデフォルト VRF への VPN インポートルートのエクスポートを制御する、エクスポートマップのための **allow-vpn** を使用して有効にできます。設定は中間 VRF で行われます。

VPN から VRF-Lite への到達可能性の設定

この例では、VPN は VRF_A と呼ばれるテナント VRF に接続します。VRF_A は、VRF-B と呼ばれる VRF-Lite に接続します。この設定により、VPN でインポートされたルートを VRF_A から VRF_B にリークできます。

```
vrf context VRF_A
  address-family ipv4 unicast
  route-target both auto
  route-target both auto evpn
  route-target import 3:3
  route-target export 2:2
  import vrf advertise-vpn
```



```

export vrf allow-vpn
vrf context VRF_B
address-family ipv4 unicast
route-target both 1:1
route-target import 2:2
route-target export 3:3

```

2つの間のルートリークは、VRF_A（テナント）で設定されたエクスポートマップで **allow-vpn** を使用してイネーブルにします。VRF_A のエクスポートマップでは、VPN からインポートされたルートを VRF_B にリークできます。エクスポートマップによって処理されたルートは、ルートターゲットのルートセットに追加される、**route-mapexport** および **export-map** 属性を持ちます。インポートマップは、**advertise-vpn** を使用して、VRF-Lite からインポートされたルートを VPN にエクスポートできるようにします。

VRF 間でルートリークが発生すると、ルートは再発信され、そのルートターゲットは、新しい VRF の設定で指定されたルートターゲットエクスポートおよびエクスポートマップ属性で置き換えられます。

リーフからリーフへの到達可能性

この例では、2つの VPN と 2つの VRF が存在します。VPN_1 は VRF_A に接続され、VPN_2 は VRF_B に接続されます。両方の VRF はルート識別子（RD）です。

```

vrf context VRF_A
address-family ipv4 unicast
route-target both auto
route-target both auto evpn
route-target import 3:3
route-target export 2:2
import vrf advertise-vpn
export vrf allow-vpn
vrf context VRF_B
address-family ipv4 unicast
route-target both 1:1
route-target import 2:2
route-target export 3:3
import vrf advertise-vpn
export vrf allow-vpn

```

この2つの間のルートリークは、VRF_A および VRF_B で設定されたエクスポートマップの **allow-vpn** で有効にされます。VPN によってインポートされたルートには、ルートターゲットのルートセットに追加された **route-mapexport** と **export-map** 属性があります。インポートマップのマップは、各 VRF からインポートされたルートが VPN にエクスポートされるようにする **advertise-vpn** オプションを使用します。

VRF 間でルートリークが発生すると、ルートは再発信され、そのルートターゲットは、新しい VRF の設定で指定されたルートターゲットエクスポートおよびエクスポートマップ属性で置き換えられます。

ループ防止付きリーフツリーフ

リーフツリーフ設定では、ルートマップに注意を払わないでいると、同じ VRF 間でリークしている BL 間のループが誤って発生する可能性があります。

- 各 BL でインバウンドルートマップを使用すれば、他のすべての BL からの更新を拒否できます。

- BL がルートを発信する場合には、標準コミュニティを適用できます。これにより、他の BL はルートを受け入れることができます。このコミュニティは、受信側の BL で削除されます。

次の例では、VTEP 3.3.3.3、4.4.4.4、および 5.5.5.5 が BL です。

```
ip prefix-list BL_PREFIX_LIST seq 5 permit 3.3.3.3/32
ip prefix-list BL_PREFIX_LIST seq 10 permit 4.4.4.4/32
ip prefix-list BL_PREFIX_LIST seq 20 permit 5.5.5.5/32
ip community-list standard BL_COMMUNITY seq 10 permit 123:123
route-map INBOUND_MAP permit 5
    match community BL_COMMUNITY
    set community none
route-map INBOUND_MAP deny 10
    match ip next-hop prefix-list BL_PREFIX_LIST
route-map INBOUND_MAP permit 20
route-map OUTBOUND_SET_COMM permit 10
    match evpn route-type 2 mac-ip
    set community 123:123
route-map SET_COMM permit 10
    set community 123:123
route-map allow permit 10

vrf context vni100
    vni 100
    address-family ipv4 unicast
        route-target import 2:2
        route-target export 1:1
        route-target both auto
        route-target both auto evpn
    import vrf advertise-vpn
    export vrf allow-vpn

vrf context vni200
    vni 200
    address-family ipv4 unicast
        route-target import 1:1
        route-target export 2:2
        route-target both auto
        route-target both auto evpn
    import vrf advertise-vpn
    export vrf allow-vpn

router bgp 100
    template peer rr
        remote-as 100
        update-source loopback0
        address-family l2vpn evpn
            send-community
            send-community extended
        route-map INBOUND_MAP in
        route-map OUTBOUND_SET_COMM out
    neighbor 101.101.101.101
        inherit peer rr
    neighbor 102.102.102.102
        inherit peer rr
    vrf vni100
        address-family ipv4 unicast
            network 3.3.3.100/32 route-map SET_COMM
    vrf vni200
        address-family ipv4 unicast
            network 3.3.3.200/32 route-map SET_COMM
```

この例では、ボーダリーフ (BL) ルータのテナント VRF は追加のインポートエクスポートフローを有効にすることで、トラフィックをリークできます。ルートマップ内のルートターゲットは、ルートのインポート元またはエクスポート先を決定します。

VRF のマルチパス

この例では、VPN に複数の着信パスがあります。この設定により、VRF_A と呼ばれる中間 VRF (VPN と別の VRF の間にあり、VRF_B と呼ばれるもの) を介したルートリークが可能になります。マルチパスが VRF_A で有効になっているとします。

```
vrf context VRF_A
  address-family ipv4 unicast
  route-target both auto evpn
  route-target export 3:3
  export vrf allow-vpn
vrf context VRF_B
  address-family ipv4 unicast
  route-target import 3:3
```

ルートリークは、VRF_A で設定されたエクスポートマップの **allow-vpn** で有効になっています。特定のプレフィックスの 2 つのパスが VPN から学習されて VRF_A にインポートされると、同じ送信元 RD (VRF_A のローカル RD) を持つ 2 つの異なるパスが VRF_B に存在するようになります。各ルートは、元の送信元 RD (リモート RD) によって区別されます。

パスの重複

この例では、設定により単一の VPN パスを VRF_A と VRF_B の両方にインポートできるようになっています。VRF_A は **export vrf allow-vpn** で設定されているため、VRF_A もそのルートを VRF_B にリークします。VRF_B には同じ送信元 RD (VRF_A のローカル RD) を持つ 2 つのパスがありますが、それらは元の送信元 RD (リモート RD) によって区別されます。

```
vrf context VRF_A
  address-family ipv4 unicast
  route-target import 1:1 evpn
  route-target export 1:1 evpn
  route-target export 2:2
  export vrf allow-vpn
vrf context VRF_B
  address-family ipv4 unicast
  route-target import 1:1 evpn
  route-target import 2:2
```

この設定では、マルチパスが存在しない状況が発生します。

BGP ローカルルート リーク情報の表示

次の show コマンドには、BGP ローカルルート リーク機能に関する情報が含まれています。

コマンド	アクション
show bgp vrf <i>vrf-name</i> process	デフォルトまたはデフォルト以外の VRF の場合、 import advertise-vpn および export allow-vpn オプションのイネーブル状態 (Yes または No) が表示されます。

コマンド	アクション
<code>show bgp vrf vrf-name ipv4 unicast prefix</code>	ルートのインポート元の宛先のリストなど、インポートされたパスに関する情報を表示します。

BGP グレースフル シャットダウン

BGP グレースフル シャットダウンに関する情報

リリース 9.3(1) 以降、BGP はグレースフル シャットダウン機能をサポートしています。この BGP 機能は、BGP **shutdown** コマンドと連携して次のことを行います。

- ルータまたはリンクがオフラインになったときのネットワーク コンバージェンス時間を大幅に短縮します。
- ルータまたはリンクがオフラインになったときに、転送中のドロップされたパケットを削減または排除します。

名前にかかわらず、BGP グレースフル シャットダウンは実際にはシャットダウンを引き起こしません。代わりに、ルータまたはリンクが間もなくダウンすることを、接続されているルータに通知します。

グレースフル シャットダウン機能は、GRACEFUL_SHUTDOWN ウェルノウン コミュニティ (0xFFFF0000 または 65535:0) を使用します。これは、IANA および IETF によって RFC 8326 によって識別されます。この既知のコミュニティは任意のルートにアタッチでき、ルートの他の属性と同様に処理されます。

この機能は、ルータまたはリンクがダウンすることを通知するため、メンテナンス時間帯または計画停止の準備に役立ちます。トラフィックへの影響を制限するには、BGP をシャットダウンする前にこの機能を使用します。

グレースフル シャットダウンの認識とアクティブ化

BGP ルータは、すべてのルートの優先事項を、GRACEFUL SHUTDOWN 対応というコンセプトを通し、GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティによって制御できます。グレースフル シャットダウン対応は、デフォルトでイネーブルになっています。これにより、受信側ピアは、GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを伝える着信ルートを優先しなくなります。一般的な使用例ではありませんが、**graceful-shutdown aware** コマンドを使用して、グレースフル シャットダウン対応を無効にしてから再度有効にすることもできます。

グレースフル シャットダウン対応は、BGP グローバル コンテキストでのみ適用されます。コンテキストの詳細については、[グレースフル シャットダウンのコンテキスト \(82 ページ\)](#) を参照してください。対応のためのオプションは、**activate** という別のオプションと一緒に動作

します。このオプションをルートマップに割り当てると、グレースフルシャットダウンのルートをより詳細に制御できます。

グレースフル シャットダウン対応オプションとアクティブ化オプションの協同作用

グレースフル シャットダウンがアクティブな場合、**activate** キーワードを指定した場合のみ、**GRACEFUL_SHUTDOWN** コミュニティがルート更新に追加されます。この時点で、コミュニティを含む新しいルート更新が生成され、送信されます。**graceful-shutdown aware** コマンドが設定されると、コミュニティを受信するすべてのルータは、アップデート内のルートの優先度を解除します（そのルート優先度を下げます）。**graceful-shutdown aware** コマンドを使用しなかった場合、BGPは**GRACEFUL_SHUTDOWN** コミュニティの設定されたルートの優先度を下げません。

この機能がアクティブになり、ルータがグレースフルシャットダウンの対応状態になった場合でも、BGPは引き続き、**GRACEFUL_SHUTDOWN** コミュニティが有効だとしてルートを考慮します。ただし、これらのルートには、最適パスの計算で最低の優先度が与えられます。代替パスが使用可能な場合は、新しい最適パスが選択され、まもなくダウンするルータまたはリンクに対応するためのコンバージェンスが行われます。

グレースフル シャットダウンのコンテキスト

BGPのグレースフルシャットダウン機能には、機能の影響と使用可能な機能を決定する2つのコンテキストがあります。

コンテキスト	影響	コマンド
グローバル	スイッチ全体と、スイッチによって処理されるすべてのルート。たとえば、 GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つすべてのルートを再アドバタイズします。	graceful-shutdown activate [route-map ルート マップ] graceful-shutdown aware
Peer	BGP ピアまたはネイバー間のリンク。たとえば、ピア間のリンクを1つだけ GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティでアドバタイズします。	graceful-shutdown activate [route-map ルート マップ]

ルート マップによるグレースフル シャットダウン

グレースフル シャットダウンは、ルート ポリシー マネージャ (RPM) 機能と連携して、スイッチの BGP ルータが **GRACEFUL_SHUTDOWN** コミュニティを使用してルートを送受信する方法を制御します。ルート マップは、インバウンドおよびアウトバウンド方向でコミュニ

ティとのルート更新を処理できます。通常、ルートマップは必要ありません。ただし、必要に応じて、グレースフルシャットダウンルートの制御をカスタマイズするために使用できます。

通常のインバウンドルートマップ

通常のインバウンドルートマップは、BGP ルータに着信するルートに影響します。ルータはデフォルトでグレースフルシャットダウンを認識するため、通常のインバウンドルートマップはグレースフルシャットダウン機能では一般的に使用されません。

Cisco NX-OS リリース 9.3 (1) 以降を実行している Cisco Nexus スイッチでは、グレースフルシャットダウン機能のインバウンドルートマップは必要ありません。Cisco NX-OS リリース 9.3

(1) 以降には、BGP ルータがグレースフルシャットダウン対応である場合に GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つすべてのルートを自動的に非優先にする、暗黙のインバウンドルートマップがあります。

通常のインバウンドルートマップは、既知の GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティと一致するように設定できます。これらの着信ルートマップは一般的ではありませんが、使用される場合があります。

- スイッチが 9.3 (1) よりも前の Cisco NX-OS リリースを実行している場合、NX-OS 9.3 (1) には暗黙的なインバウンドルートマップがありません。これらのスイッチでグレースフルシャットダウン機能を使用するには、グレースフルシャットダウンインバウンドルートマップを作成する必要があります。ルートマップは、既知の GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つインバウンドルートと一致し、それらを許可し、それらを非優先にする必要があります。着信ルートマップが必要な場合は、9.3 (1) より前のバージョンの NX-OS を実行し、グレースフルシャットダウンルートを受信している BGP ピアで作成します。
- グレースフルシャットダウン認識をディセーブルにし、一部の BGP ネイバーからの GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つ着信ルートでルータを動作させる場合は、それぞれのピアでインバウンドルートマップを設定できます。

通常のアウトバウンドルートマップ

通常のアウトバウンドルートマップは、BGP ルータが送信するルートの転送を制御します。通常のアウトバウンドルートマップは、グレースフルシャットダウン機能に影響を与える可能性があります。たとえば、GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティで一致するようにアウトバウンドルートマップを設定し、属性を設定できます。これは、グレースフルシャットダウンアウトバウンドルートマップよりも優先されます。

グレースフルシャットダウンアウトバウンドルートマップ

アウトバウンドグレースフルシャットダウンルートマップは、グレースフルシャットダウン機能のアウトバウンドルートマップの特定のタイプです。これらはオプションですが、ルートマップに関連付けられているコミュニティリストがすでにある場合に役立ちます。通常のグレースフルシャットダウンアウトバウンドルートマップには、特定の属性を設定または変更するための set 句のみが含まれています。

アウトバウンドルートマップは、次の方法で使用できます。

- 既存のアウトバウンドルート マップをすでに持っている顧客の場合は、より大きいシーケンス番号を持つ新しいエントリを追加し、GRACEFUL_SHUTDOWN ウェルノウンコミュニティで照合し、必要な属性を追加できます。
 - **graceful-shutdown activate route-map name** オプションを使用してグレースフルシャットダウンアウトバウンドルート マップを使用することもできます。これが一般的な使用例です。
- このルート マップには **match** 句が必要ないため、ルート マップはネイバーに送信されるすべてのルートで一致します。

ルート マップの優先順位

同じルータ上に複数のルートマップが存在する場合は、次の優先順位が適用されて、コミュニティとのルートの処理方法が決定されます。次の例を考慮してください。60のローカル設定を設定する標準の発信ルートマップ名 **Red** があるとします。また、**Blue** という名前のピアグレースフルシャットダウンルートマップがあり、**local-pref**が30に設定されているとします。ルート更新が処理されると、**Red** は **Blue** を上書きするため、ローカルプリファレンスは60に設定されます。

- 通常の発信ルート マップは、ピア グレースフルシャットダウンマップよりも優先されます。
- ピア グレースフルシャットダウン マップは、グローバル グレースフル シャットダウン マップよりも優先されます。

ガイドラインと制約事項

BGP グローバル シャットダウンの制限事項と注意事項は、次のとおりです。

- グレースフルシャットダウン機能は、影響を受けるルータの代替ルートがネットワークに存在する場合にのみ、トラフィック損失を回避するのに役立ちます。ルータに代替ルートがない場合は、GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを伝送するルートが使用可能な唯一のルートであるため、最適パスの計算に使用されます。この状況では、機能の目的が失われます。
- GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを送信するには、BGP 送信コミュニティの設定が必要です。
- ルート マップの場合:
 - グローバルルートマップとネイバールートマップが設定されている場合、ネイバー単位のルートマップが優先されます。
 - 発信ルートマップは、グレースフルシャットダウン用に設定されたグローバルルートマップよりも優先されます。
 - 発信ルートマップは、グレースフルシャットダウン用に設定されたピアルートマップよりも優先されます。

- レガシー（既存の）インバウンドルート マップにグレースフル シャットダウン機能を追加するには、次の手順を実行します。
 1. `graceful shutdown match` 句をルート マップの先頭に追加します。これには、句に低いシーケンス番号（たとえば、シーケンス番号 0）を設定します。
 2. `graceful shutdown` 句の後に `continue` ステートメントを追加します。`continue` ステートメントを省略すると、`graceful shutdown` 句と一致するルートマップ処理が停止します。シーケンス番号が大きい他の句（たとえば、1以上）は処理されません。

グレースフル シャットダウン タスクの概要

グレースフル シャットダウン機能を使用するには、通常、すべての Cisco Nexus スイッチでグレースフル シャットダウン対応をイネーブルにし、機能をイネーブルのままにします。BGP ルータをオフラインにする必要がある場合は、`graceful-shutdown activate` を設定します。

次の詳細に、グレースフル シャットダウン機能を使用するためのベスト プラクティスを示します。

ルータまたはリンクをダウンさせるには、次の手順を実行します。

1. グレースフル シャットダウン機能を設定します。
2. ネイバーでベストパスを確認します。
3. 最適パスが再計算されたら、BGP を無効にする `shutdown` コマンドを発行します。
4. ルータまたはリンクをシャットダウンする必要がある作業を実行します。

ルータまたはリンクをオンラインに戻すには、次の手順を実行します。

1. シャットダウンが必要な作業が完了したら、BGP を再度イネーブルにします（`no shutdown`）。
2. グレースフル シャットダウン機能を無効にします（config モードの `no graceful-shutdown activate`）。

リンクのグレースフル シャットダウンの設定

この作業では、2つの BGP ルータ間の特定のリンクでグレースフル シャットダウンを設定できます。

始める前に

BGP をまだ有効にしていない場合は、ここで有効にします（`feature bgp`）。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config terminal 例 : <pre>switch-1# configure terminal switch-1(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router bgp autonomous-system-number 例 : <pre>switch-1(config)# router bgp 110 switch-1(config-router)#</pre>	ルータ コンフィギュレーション モードを開始して、BGP ルーティング プロセスを作成または設定します。
ステップ 3	neighbor { ipv4-address ipv6-address } remote-as as-number 例 : <pre>switch-1(config-router)# neighbor 10.0.0.3 remote-as 200 switch-1(config-router-neighbor)#</pre>	ネイバーが属する自律システム (AS) を設定します。
ステップ 4	graceful-shutdown activate [route-map map-name] 例 : <pre>switch-1(config-router-neighbor)# graceful-shutdown activate route-map gshutPeer switch-1(config-router-neighbor)#</pre>	<p>ネイバーへのリンクでグレースフル シャットダウンを設定します。また、既知の GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを使用してルートをアドバタイズし、アウトバウンドルート更新にルートマップを適用します。</p> <p>ルートは、デフォルトでグレースフル シャットダウン コミュニティでアドバタイズされます。この例では、ルートは gshutPeer という名前のルート マップを使用して、グレースフル シャットダウン コミュニティを持つネイバーにアドバタイズされます。</p> <p>gshut コミュニティを受信したデバイスは、ルートのコミュニティを確認し、オプションでコミュニティを使用してルーティング ポリシーを適用します。</p>

GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティに基づく BGP ルートのフィルタリングとローカルプリファレンスの設定

まだ 9.3(1) を実行していないスイッチには、GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティ名と一致するインバウンドルートマップがありません。したがって、正しいルートを識別して先送りする方法はありません。

9.3(1) よりも前のリリースの NX-OS を実行しているスイッチでは、グレースフル シャットダウン (65535:0) のコミュニティ値と一致するインバウンドルート マップを設定し、ルートを非優先にする必要があります。

スイッチが 9.3(1) 以降を実行している場合、着信ルートマップを設定する必要はありません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : switch-1# configure terminal switch-1(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	ip community list standard <i>community-list-name seq sequence-number { permit deny } value</i> 例 : switch-1(config)# ip community-list standard GSHUT seq 10 permit 65535:0 switch-1(config)#	コミュニティリストを設定し、よく知られたグレースフルシャットダウンコミュニティ値を持つルートを許可または拒否します。
ステップ 3	route map map-tag {deny permit} sequence-number 例 : switch-1(config)# route-map RM_GSHUT permit 10 switch-1(config-route-map)#	ルート マップをシーケンス 10 として設定し、GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つルートを許可します。
ステップ 4	match community community-list-name 例 : switch-1(config-route-map)# match community GSHUT switch-1(config-route-map)#	IP コミュニティ リスト GSHUT に一致するルートがルート ポリシー マネージャ (RPM) により処理されるように設定します。
ステップ 5	set local-preference local-pref-value 例 : switch-1(config-route-map)# set local-preference 10 switch-1(config-route-map)#	IP コミュニティ リスト GSHUT に一致するルートに、指定されたローカルプリファレンスが与えられるように設定します。
ステップ 6	exit 例 : switch-1(config-route-map)# exit switch-1(config)#	ルートマップ設定モードを終了し、グローバル設定モードに戻ります。
ステップ 7	router bgp community-list-name 例 :	ルータ設定モードを開始し、BGP インスタンスを作成します。

	コマンドまたはアクション	目的
	switch-1 (config) # router bgp 100 switch-1 (config-router) #	
ステップ 8	neighbor { ipv4-address ipv6-address } 例 : switch-1 (config-router) # neighbor 10.0.0.3 switch-1 (config-router-neighbor) #	指定したネイバーのルート BGP ネイバー モードを開始します。
ステップ 9	address-family { address-family sub family } 例 : nxosv2 (config-router-neighbor) # address-family ipv4 unicast nxosv2 (config-router-neighbor-af) #	ネイバーをアドレスファミリ (AF) 設定モードにします。
ステップ 10	send community 例 : nxosv2 (config-router-neighbor-af) # send-community nxosv2 (config-router-neighbor-af) #	ネイバーとの BGP コミュニティ交換を可能にします。
ステップ 11	route map map-tag in 例 : nxosv2 (config-router-neighbor-af) # route-map RM_GSHUT in nxosv2 (config-router-neighbor-af) #	ネイバーからの着信ルートにルートマップを適用します。この例では、RM_GSHUT という名前のルートマップは、ネイバーからの GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つルートを許可します。

すべての BGP ネイバーのグレースフル シャットダウンの設定

グレースフル シャットダウン イニシエータのすべてのネイバーに GRACEFUL_SHUTDOWN ウェルノウン コミュニティを手動で適用できます。

すべての BGP ネイバーに対して、グローバル レベルでグレースフル シャットダウンを設定できます。

始める前に

BGP をまだ有効にしていない場合は、ここで有効にします (**feature bgp**) 。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 :	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	switch-1# configure terminal switch-1 (config) #	
ステップ 2	router bgp autonomous-system-number 例 : switch-1 (config) # router bgp 110 switch-1 (config-router) #	ルータ コンフィギュレーション モードを開始して、BGP ルーティング プロセスを作成または設定します。
ステップ 3	graceful-shutdown activate [route-map map-name] 例 : switch-1 (config-router-neighbor) # graceful-shutdown activate route-map gshutPeer switch-1 (config-router-neighbor) #	すべてのネイバーへのリンクのグレースフルシャットダウンルートマップを設定します。また、既知の GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つすべてのルートをアドバタイズし、ルートマップをアウトバウンドルートアップデートに適用します。 ルートはデフォルトで GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティでアドバタイズされます。この例では、ルートが gshutPeer という名前のルートマップを持つコミュニティを持つすべてのネイバーにアドバタイズされます。ルートマップには set 句のみを含める必要があります。 GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを受信したデバイスは、ルートのコミュニティを確認し、オプションでコミュニティを使用してルーティング ポリシーを適用します。

GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを使用したすべてのルートのプリファレンスの制御

Cisco NX-OS では、GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つ着信ルートの優先順位を下げることができます。 **graceful shutdown aware** が有効になっている場合、最適パス計算時に、BGP はコミュニティを伝送するルートを最も低い優先順位と見なします。デフォルトでは、プリファレンスの引き下げが有効になっていますが、このオプションを選択的に無効にすることもできます。

このオプションをイネーブルまたはディセーブルにするたびに、BGP のベストパス計算がトリガーされます。このオプションを使用すると、グレースフルシャットダウンのウェルノウンコミュニティにおける BGP のベストパス計算の動作を柔軟に制御できます。

始める前に

BGP を有効にしていない場合は、ここで有効にします (**feature bgp**)。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch-1(config)# config terminal switch-1(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router bgp <i>autonomous-system</i> 例： switch-1(config)# router bgp 100 switch-1(config-router)#	ルータ コンフィギュレーション モードを開始し、BGP ルーティング プロセスを設定します。
ステップ 3	(任意) no graceful-shutdown aware 例： switch-1(config-router)# no graceful-shutdown aware switch-1(config-router)#	この BGP ルータでは、GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つすべてのルートに低い優先順位を指定しないという意味です。グレースフル シャットダウン 認識機能がディセーブルになっている場合、デフォルトアクションはルートを非優先にします。そのため、コマンドには no 形式というオプションが存在しており、これを使用すると、グレースフル シャットダウン ルートは非優先になりません。

GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティのピアへの送信の防止

発信ルート更新にルート属性として追加された GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティが不要になった場合は、コミュニティを削除して、指定されたネイバーに送信しなくなります。1つの使用例は、ルータが自律システム境界にあり、グレースフルシャットダウン機能が自律システム境界の外部に伝播しないようにする場合です。

GRACEFUL_SHUTDOWN がピアに送信されないようにするには、**send community** オプションを無効にするか、コミュニティを発信ルート マップから削除します。

次の方法の中から 1 つを選択してください。

- 実行コンフィギュレーションで **send-community** を無効にします。

例：

```
nxosv2(config-router-neighbor-af)# no send-community standard
nxosv2(config-router-neighbor-af)#
```

このオプションを使用すると、スイッチは GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを受信しますが、発信ルート マップを介してダウンストリーム ネイバーに送信されません。すべての標準コミュニティも送信されません。

- 次の手順に従って、発信ルート マップを介して GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを削除します。
 1. GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティと一致する IP コミュニティ リストを作成します。
 2. GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティと照合する発信ルート マップを作成します。
 3. `set community-list delete` 句を使用して GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを削除します。

このオプションを使用すると、コミュニティ リストは GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティと一致し、許可されます。その後、発信ルート マップはコミュニティと照合され、発信ルート マップから削除されます。他のすべてのコミュニティは、問題なく発信ルート マップを通過します。

グレースフル シャットダウン情報の表示

グレースフル シャットダウン機能に関する情報は、次の **show** コマンドで確認できます。

コマンド	アクション
<code>show ip bgp community-list graceful-shutdown</code>	GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つ BGP ルーティング テーブル内のすべてのエン トリを表示します。
<code>show running-config bgp</code>	実行中の BGP のデフォルト設定を示します。
<code>show running-config bgp all</code>	グレースフル シャットダウン機能に関する情報など、実行中の BGP 設定のすべての情報を表示します。
<code>show bgp address-family neighbors neighbor-address</code>	機能がピアに設定されている場合、次のように表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 指定されたネイバーの graceful-shutdown-activate 機能の状態 • 指定されたネイバーに設定されたグレースフルシャットダウンルートマップの名前

コマンド	アクション
<code>show bgp process</code>	<p>コンテキストに応じて異なる情報を表示します。</p> <p><code>graceful-shutdown-activate</code> オプションがピア コンテキストで設定されている場合、<code>graceful-shutdown-active</code> を介して機能の有効または無効状態を示します。</p> <p><code>graceful-shutdown-activate</code> オプションがグローバル コンテキストで設定され、<code>graceful-shutdown</code> ルートマップがある場合は、次のように機能の有効状態が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>graceful-shutdown-active</code> • <code>graceful-shutdown-aware</code> • <code>graceful-shutdown route-map</code>
<code>show ip bgp address</code>	<p>指定されたアドレスについて、次を含む BGP ルーティング テーブル情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最適パスとして指定されたアドレスの状態 • 指定されたアドレスが <code>GRACEFUL_SHUTDOWN</code> コミュニティの一部であるかどうか

グレースフル シャットダウンの設定例

次に、グレースフル シャットダウン機能を使用するための設定例を示します。

BGP リンクのグレースフル シャットダウンの設定

次に、ローカルプリファレンスとコミュニティを設定しながらグレースフル シャットダウンを設定する例を示します。

- 指定されたネイバーへのリンクのグレースフル シャットダウン アクティブ化の設定
- ルートへの `GRACEFUL_SHUTDOWN` コミュニティの追加
- コミュニティとのアウトバウンドルートに対して `set` 句のみを使用して `gshutPeer` という名前のルートマップを設定します。

```
router bgp 100
  neighbor 20.0.0.3 remote-as 200
  graceful-shutdown activate route-map gshutPeer
  address-family ipv4 unicast
    send-community
```

```
route-map gshutPeer permit 10
  set local-preference 0
  set community 200:30
```

All-Neighbor BGP リンクのグレースフル シャットダウンの設定

次に例を示します。

- ローカルルータとそのすべてのネイバーを接続するすべてのリンクに対してグレースフルシャットダウン アクティブ化を設定します。
- GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティをルートに追加しています。
- すべての発信ルートに対して set 句のみを使用して gshutAall という名前のルートマップを設定します。

```
router bgp 200
  graceful-shutdown activate route-map gshutAll

route-map gshutAll permit 10
  set as-path prepend 10 100 110
  set community 100:80

route-map Red permit 10
  set local-pref 20

router bgp 100
  graceful-shutdown activate route-map gshutAll
  router-id 2.2.2.2
  address-family ipv4 unicast
  network 2.2.2.2/32
  neighbor 1.1.1.1 remote-as 100
  update-source loopback0
  address-family ipv4 unicast
  send-community
  neighbor 20.0.0.3 remote-as 200
  address-family ipv4 unicast
  send-community
  route-map Red out
```

この例では、ネイバー 1.1.1.1 に対して gshutAll ルートマップが有効になりますが、ネイバー 20.0.0.3 で設定された発信ルートマップ Red が優先されるため、ネイバー 20.0.0.3 に対しては有効になりません。

ピアテンプレートでのグレースフル シャットダウンの設定

この例では、ピアセッションテンプレートでグレースフルシャットダウン機能を設定します。これはネイバーによって継承されます。

```
router bgp 200
  template peer-session p1
    graceful-shutdown activate route-map gshut_out
  neighbor 1.1.1.1 remote-as 100
  inherit peer-session p1
  address-family ipv4 unicast
  send-community
```


GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティの使用およびインバウンドルートマップに基づく BGP ルートのフィルタリングとローカル プリファレンスの設定

次に、コミュニティ リストを使用して、GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つ着信ルートをフィルタリングする例を示します。この設定は、Cisco NX-OS 9.3(1) を最小バージョンとして実行していないレガシー スイッチに役立ちます。

次に例を示します。

- GRACEFUL_SHUTDOWN コミュニティを持つルートを許可する IP コミュニティ リスト。
- RM_GSHUT という名前のルート マップは、GSHUT という名前の標準コミュニティ リストに基づいてルートを許可します。
- また、ルート マップは、処理するルートの優先順位を 0 に設定します。これにより、ルータがオフラインになったときに、それらのルートに最適パス計算の優先順位が低くなります。ネイバー (20.0.0.2) からの着信 IPv4 ルートにルート マップが適用されます。

```
ip community-list standard GSHUT permit 65535:0

route-map RM_GSHUT permit 10
  match community GSHUT
  set local-preference 0

router bgp 200
  neighbor 20.0.0.2 remote-as 100
  address-family ipv4 unicast
    send-community
    route-map RM_GSHUT in
```

グレースフル リスタートの設定

グレースフル リスタートを設定し、BGP に対してグレースフル リスタート ヘルパー機能をイネーブルにできます。

始める前に

BGP をイネーブルにする必要があります（「BGP のイネーブル化」の項を参照）。

VRF を作成します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	router bgp as-number 例：	自律システム番号を設定して、新しい BGP プロセスを作成します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch(config)# router bgp 65535 switch(config-router)#</pre>	
ステップ 3	<p>(任意) timers prefix-peer-timeout <i>timeout</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router)# timers prefix-peer-timeout 20</pre>	<p>BGP プレフィックス ピアのタイムアウト値を設定します (秒単位)。デフォルト値は 90 秒です。</p> <p>(注) このコマンドは、Cisco NX-OS リリース 9.3(3) 以降でサポートされます。</p>
ステップ 4	<p>graceful-restart</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router)# graceful-restart</pre>	<p>グレースフル リスタートおよびグレースフル リスタート ヘルパー機能をイネーブルにします。このコマンドは、デフォルトでイネーブルになっています。</p> <p>このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動通知およびセッションリセットが開始されます。</p>
ステップ 5	<p>graceful-restart {restart-time <i>time stalepath-time time}</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router)# graceful-restart restart-time 300</pre>	<p>グレースフル リスタート タイマーを設定します。</p> <p>オプション パラメータは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • restart-time : BGP ピアに送信されたリスタートの最大時間。有効な範囲は 1 ~ 3600 秒です。デフォルトは 120 です。 • stalepath-time : BGP が再起動中の BGP ピアからの古いルートを維持する最大時間有効な範囲は 1 ~ 3600 秒です。デフォルトは 300 です。 <p>このコマンドによって、BGP ネイバーセッションの自動通知およびセッションリセットが開始されます。</p>
ステップ 6	<p>graceful-restart-helper</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-router)# graceful-restart restart-time 300</pre>	<p>グレースフル リスタート ヘルパー機能をイネーブルにします。このコマンドは、グレースフル リスタートをディセーブルにしていながら、グレースフル リスタート ヘルパー機能はイネーブルにする必要がある場合に使用します。このコマンドによって、BGP ネイバーセッ</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		セッションの自動通知およびセッションリセットが開始されます。
ステップ 7	(任意) show running-config bgp 例： switch(config-router)# show running-config bgp	BGP の設定を表示します。
ステップ 8	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config-router)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

例

次に、グレースフル リスタートを有効にする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router bgp 65536
switch(config-router)# graceful-restart
switch(config-router)# graceful-restart restart-time 300
switch(config-router)# copy running-config startup-config
```

仮想化の設定

1 つの BGP プロセスを設定し、複数の VRF を作成できます。また、各 VRF で同じ BGP プロセスを使用できます。

始める前に

BGP を有効にする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	vrf context vrf-name 例：	新しい VRF を作成し、VRF 設定モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	switch(config)# vrf context RemoteOfficeVRF switch(config-vrf)#	
ステップ 3	exit 例： switch(config-vrf)# exit switch(config)#	VRF設定モードを終了します。
ステップ 4	router bgp as-number 例： switch(config)# router bgp 65535 switch(config-router)#	自律システム番号を設定して、新しい BGP プロセスを作成します。
ステップ 5	vrf vrf-name 例： switch(config-router)# vrf RemoteOfficeVRF switch(config-router-vrf)#	ルータ VRF設定モードを開始し、この BGP インスタンスと VRF を関連付けます。
ステップ 6	neighbor ip-address remote-as as-number 例： switch(config-router-vrf)# neighbor 209.165.201.1 remote-as 65535 switch(config-router--vrf-neighbor)#	リモート BGP ピアの IP アドレスおよび AS 番号を設定します。
ステップ 7	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config-router-vrf-neighbor)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

例

次に、VRF を作成し、VRF でルータ ID を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vrf context NewVRF
switch(config-vrf)# exit
switch(config)# router bgp 65536
switch(config-router)# vrf NewVRF
switch(config-router-vrf)# neighbor 209.165.201.1 remote-as 65536
switch(config-router-vrf-neighbor)# copy running-config startup-config
```

拡張 BGP の設定の確認

BGP の設定を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
<code>show bgp all [summary] [vrf vrf-name]</code>	すべてのアドレスファミリーについて、BGP 情報を表示します。
<code>show bgp convergence [vrf vrf-name]</code>	すべてのアドレスファミリーについて、BGP 情報を表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] community {regexp expression [community] [no-advertise] [no-export] [no-export-subconfed]} [vrf vrf-name]</code>	BGP コミュニティと一致する BGP ルートを表示します。
<code>show bgp [vrf vrf-name] {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] community-list list-name [vrf vrf-name]</code>	BGP コミュニティリストと一致する BGP ルートを表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] extcommunity {regexp expression generic [non-transitive transitive] aa4:nn [exact-match]} [vrf vrf-name]</code>	BGP 拡張コミュニティと一致する BGP ルートを表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] extcommunity-list list-name [exact-match] [vrf vrf-name]</code>	BGP 拡張コミュニティリストと一致する BGP ルートを表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] extcommunity-list list-name [exact-match] [vrf vrf-name]</code>	BGP ルート ダンプニングの情報を表示します。ルートフラップ ダンプニング情報を消去するには、 clear bgp dampening コマンドを使用します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] {dampening dampened-paths [regexp expression]} [vrf vrf-name]</code>	BGP ルート ヒストリパスを表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {vpn4 vpn6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] filter-list list-name [vrf vrf-name]</code>	BGP フィルタリストの情報を表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {vpn4 vpn6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] neighbors [ip-address ipv6-prefix] [vrf vrf-name]</code>	BGP ピアの情報を表示します。これらのネイバーを消去するには、 clear bgp neighbors コマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] {nexthop nexthop-database} [vrf vrf-name]</code>	BGP ルートネクストホップの情報を表示します。
<code>show bgp paths</code>	BGP パス情報を表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] policy name [vrf vrf-name]</code>	BGP ポリシー情報を表示します。ポリシー情報を消去するには、 clear bgp policy コマンドを使用します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] prefix-list list-name [vrf vrf-name]</code>	プレフィックスリストと一致する BGP ルートを表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] received-paths [vrf vrf-name]</code>	ソフト再構成用に保管されている BGP パスを表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] regexp expression [vrf vrf-name]</code>	AS_path 正規表現と一致する BGP ルートを表示します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] route-map map-name [vrf vrf-name]</code>	ルートマップと一致する BGP ルートを表示します。
<code>show bgp peer-policy name [vrf vrf-name]</code>	BGP ピア ポリシー情報を表示します。
<code>show bgp peer-session name [vrf vrf-name]</code>	BGP ピアセッション情報を表示します。
<code>show bgp peer-template name [vrf vrf-name]</code>	BGP ピア テンプレート情報を表示します。ピア テンプレートのすべてのネイバーを消去するには、 clear bgp peer-template コマンドを使用します。
<code>show bgp process</code>	BGP プロセス情報を表示します。
<code>show ip route ip-address detail vrf all i bw</code>	リンク帯域幅の EXTCOMM フィールドを表示します。出力の <code>bw : xx</code> (<code>bw : 40</code> など) は、BGP ピアが帯域幅付きの BGP 拡張属性を送信していることを示します (重み付け ECMP の場合)。

コマンド	目的
<code>show {ipv4 ipv6} bgp options</code>	BGP のステータスと構成情報を表示します。
<code>show {ipv4 ipv6} mbgp options</code>	BGP のステータスと構成情報を表示します。
<code>show running-configuration bgp</code>	現在実行中の BGP コンフィギュレーションを表示します。

BGP 統計情報のモニタリング

BGP の統計情報を表示するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show bgp {ipv4 ipv6} {unicast multicast} [ip-address ipv6-prefix] flap-statistics [vrf vrf-name]</code>	BGP ルート フラップの統計情報を表示します。これらの統計情報をクリアするには、 clear bgp flap-statistics コマンドを使用します。
<code>show bgp {ipv4 ipv6} unicast injected-routes</code>	ルーティング テーブルに挿入されたルートを表示します。
<code>show bgp sessions [vrf vrf-name]</code>	すべてのピアの BGP セッションを表示します。これらの統計情報をクリアするには、 clear bgp sessions コマンドを使用します。
<code>show bgp statistics</code>	BGP 統計情報を表示します。

設定例

この例は、個々の BGP ネイバーの BFD をイネーブルにする方法を示します。

```
router bgp 400
  router-id 2.2.2.2
  neighbor 172.16.2.3
    bfd
    remote-as 400
    update-source Vlan1002
    address-family ipv4 unicast
```

プレフィックス ベース ネイバーの MD5 認証を設定する例を示します。

```
template peer BasePeer-V6
  description BasePeer-V6
  password 3 f4200cfc725bbd28
  transport connection-mode passive
```

```

    address-family ipv6 unicast
template peer BasePeer-V4
    bfd
    description BasePeer-V4
    password 3 f4200cfc725bbd28
    address-family ipv4 unicast
--
neighbor fc00::10:3:11:0/127 remote-as 65006
    inherit peer BasePeer-V6
neighbor 10.3.11.0/31 remote-as 65006
    inherit peer BasePeer-V4

```

次に、ネイバー ステータスの変化に関するメッセージをグローバルに有効にし、特定のネイバーについてはメッセージを抑制する方法を示します。

```

router bgp 65100
  log-neighbor-changes
  neighbor 209.165.201.1 remote-as 65535
  description test
  address-family ipv4 unicast
    soft-reconfiguration inbound
    disable log-neighbor-changes

```

関連項目

BGP の詳細については、次の項目を参照してください。

- [基本的 BGP の設定](#)
- [Route Policy Manager の設定](#)

その他の参考資料

BGP の実装に関連する詳細情報については、次の項を参照してください。

MIB

MIB	MIB のリンク
BGP に関連する MIB	サポートされている MIB を検索およびダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください。 ftp://ftp.cisco.com/pub/mibs/supportlists/nexus9000/Nexus9000MIBSupportList.html

